

2022.11.29 作成

2022 年 11 月新聞書評に掲載された本



どんぐりころころむし(幼児絵本ふしぎなたねシリーズ)

澤口たまみ 著

福音館書店

秋の林はどんぐりでいっぱい。たくさん拾って、おうちのびんの中に入れていたら、いつのまにか穴があいて、むしが出てきた。そっとなでると、むしはどんぐりみたいにな転がって…。『ちいさなかがくのとも』から生まれた絵本。

産経新聞 2022/11/03

2022:10./ 24p
978-4-8340-8681-2

¥990〔税込〕



狩野探幽・山雪～悉く新意を出し、狩野氏を一変す～(ミネルヴァ日本評伝選)

山下 善也 著

ミネルヴァ書房

江戸で活躍した狩野の血筋を引く探幽と、京都を拠点に活躍した門人筋の山雪。魅力あふれる絵画の数々を生んだ東西の巨匠の実像に迫り、その対照的な造形に、江戸時代の画家たちを2つの系譜に導く原型があることを解き明かす。

産経新聞 2022/11/05

2022:2./
20p,266p,10p
978-4-623-09348-9

¥3,850〔税込〕



論点・日本史学

岩城 卓二／上島 享／河西 秀哉／塩出 浩之／谷川 穰／告井 幸男 編

ミネルヴァ書房

縄文時代に格差はあったのか、江戸幕府はいかにして諸大名を統合していたのか-。日本史の154の<論点>を最新の研究動向に照らし、時代ごとの<総論><議論の背景><探究のポイント>とともに、コンパクトに解説する。

産経新聞 2022/11/05

2022:8./ 10p,371p
978-4-623-09349-6

¥3,960〔税込〕



キッズ・アー・オールライト

丸山正樹 著

朝日新聞出版

ストリートに生きる日系ブラジル人の少年。介護に追い詰められるヤングケアラーの少女。不器用な、「見えない存在」である彼らを、今日も見守る大人たちがいる…。『小説トリッパー』連載を書籍化。

産経新聞 2022/11/06

2022:9./ 270p
978-4-02-251861-3

¥1,760〔税込〕



- ご注文の際には、タイトル・出版社名・価格のほか、ISBN も併せてお知らせください。
- 原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文、ご照会には弊社本・支店・営業部(課)までお申し付けください。
- 表示価格は2022年11月時点での税込み価格です。



アトランティス=ムーの系譜学～<失われた大陸>が映す近代日本～(講談社選書メチエ 770)

庄子 大亮 著
講談社

はるか昔、一夜にして海中に沈んだ大陸があった。伝説とともに語られるアトランティス大陸やムー大陸は、2000 年以上に渡り人類を魅了し続けてきた。近代日本を焦点に、プラトンに始まる複雑で数奇な伝説受容を考察する。

産経新聞 2022/11/06

2022:9./ 366p
978-4-06-529380-5

¥2,365〔税込〕



世界を支えるすごい数学～CG から気候変動まで～

イアン・スチュアート 著
河出書房新社

フェルマー×暗号、カオス理論×品質管理、トポロジー×防犯、ケーキ分割問題×選挙...。意外なところで大活躍している「すごい数学」を、豊富な実例とともに紹介する。

産経新聞 2022/11/06

2022:10./ 331p,10p
978-4-309-25453-1

¥2,420〔税込〕



世界を支配する人々だけが知っている 10 の方程式～成功と権力を手にするための数学講座～

デイヴィッド・サンプター 著
光文社

世界は 10 の方程式に従って動いている。そのしくみを理解し、活用できる集団「TEN」だけが、世界を手中に収めることができるのだ。現代社会を支配している 10 の数式と、それを活用する方法を、ユーモラスに解説する。

産経新聞 2022/11/06

2022:10./ 422p
978-4-334-96260-9

¥2,420〔税込〕



吾輩は後期高齢者の日本国憲法である

西修 著
産経新聞出版

憲法は 75 歳、あちこちガタが来ているのに、一度も治療(改正)をしてもらえない! 憲法学の権威が、「吾輩=75 歳の憲法」の視点から、ユーモラスにその生い立ちと不具合を明らかにする。『正論』連載を書籍化。

産経新聞 2022/11/06

2022:10./ 269p
978-4-8191-1419-6

¥1,760〔税込〕



こんな数学だったら絶対に嫌いにならなかったのに～ICU 高校数学科の読めば解ける入試問題～

ICU 高校数学科 著
アチーブメント出版

公式を知らなくても、読んで考える力があれば、数学は好きになれる! ICU 高校開校以来の名物、ユニークな数学科入試問題を、作成担当教員のオリジナル解説とともに掲載。コピーして使える書き込み式の解答用紙も収録。

産経新聞 2022/11/06

2022:9./ 198p
978-4-86643-117-8

¥1,760〔税込〕





あずきがゆばあさんととら

パク・ユンギョ 著

偕成社

昔、深い山奥にあずきがゆばあさんが住んでいた。ばあさんの煮るあずきがゆは、とってもおいしい。ある日、あずきの畑で草取りをするばあさんのところへ、でっかいとらがあらわれ…。韓国の小学校の教科書にのっている昔話。

産経新聞 2022/11/13

2022:10./ 32p
978-4-03-348620-8

¥1,430〔税込〕



しろがねの葉

千早 茜 著

新潮社

戦国末期、採掘最盛期を迎える石見銀山。天才山師・喜兵衛に拾われた少女ウメは、銀山の知識と鉱脈のありかを授けられ、女だてらに坑道で働き…。渦巻く欲望と死に抗って生きる女の生涯を描く。『小説新潮』連載を加筆修正。

産経新聞 2022/11/13

2022:9./ 314p
978-4-10-334194-9

¥1,870〔税込〕



芸能界誕生(新潮新書 966)

戸部田 誠 著

新潮社

占領期のジャズブームに音楽を始めた若者たちはプロダクションを立ち上げ、芸能界を新しく作り変える。スター誕生の物語、テレビ局やレコード会社との攻防戦など、芸能界の壮絶な舞台裏を明かすノンフィクション。

産経新聞 2022/11/13

2022:9./ 334p
978-4-10-610966-9

¥1,034〔税込〕



デザインの歴史～カラー版図説～

伊藤 潤／山本 政幸／天内 大樹／高橋 裕行／暮沢 剛巳 著

学芸出版社

アーツ・アンド・クラフツ運動から、アール・ヌーヴォー、モダニズム、現代のデジタルデザインまで。産業革命以降の欧米デザインの変遷を、見開き 2 ページでビジュアルに紹介。カラー図版も 450 点以上掲載する。

産経新聞 2022/11/13

2022:9./ 121p
978-4-7615-2834-8

¥3,080〔税込〕



切手デザイナーの仕事～日本郵便切手・葉書室より～

間部 香代 著

グラフィック社

日本の切手をつくる 8 人のデザイナー。8 人の個性は異なり、デザインのスタイルもそれぞれ違う。8 人 8 様の想いと仕事を紹介する。切手制作の流れなどを説明したコラムも掲載。

産経新聞 2022/11/13

2022:10./ 187p
978-4-7661-3716-3

¥1,980〔税込〕





人類史にかがやく古代都市はなぜ消滅したのか～チャタルヒュルク、ポンペイ、アンコール、カホキア～

アナリー・ニューイツ 著

青土社

トルコのチャタルヒュルク、イタリアのポンペイなど、いまはなき4つの都市に焦点をあてて、都市から人類の歴史を見つめなおす。これまであまりふれられてこなかった奴隷、労働者、女性、移民といった要素にもふれる。

産経新聞 2022/11/13

2022:9./ 304p,6p
978-4-7917-7501-9

¥3,080〔税込〕



日本全国タイル遊覧(Kan Kan Trip Japan 11)

吉田真紀 著

書肆侃侃房

まちを歩くとタイルに出会う。素敵な空間にはタイルがある。珠玉のタイルを探しに、旅に出よう！北海道庁本庁舎のきらめくタイル、小石川後楽園の謎タイル…。北海道から沖縄まで、全国をめぐって集めた46のタイルを紹介。

産経新聞 2022/11/13

2022:10./ 207p
978-4-86385-544-1

¥2,090〔税込〕



地球の歩き方<J00> 2023～24 日本

地球の歩き方編集室 編

学研

北海道から沖縄県まで、日本の47都道府県を網羅したガイド。プロフィール、代表的な観光地、名産品やグルメなど、各都道府県の魅力を紹介。1泊2日のモデルルートも掲載する。データ:2021年8月～2022年2月現在。

産経新聞 2022/11/19

2022:9./ 1056p
978-4-05-801715-9

¥3,300〔税込〕



我々はどこから来て、今どこにいるのか?<上> アングロサクソンがなぜ覇権を握ったか

エマニュエル・トッド 著

文藝春秋

ホモ・サピエンス誕生からトランプ登場までの全人類史を「家族」という視点から書き換える。上は、「アングロサクソンがなぜ世界の覇権を握ったか」という世界史最大の謎を解き明かす。

産経新聞 2022/11/19

2022:10./ 380p
978-4-16-391611-8

¥2,420〔税込〕



我々はどこから来て、今どこにいるのか?<下> 民主主義の野蛮な起源

エマニュエル・トッド 著

文藝春秋

ホモ・サピエンス誕生からトランプ登場までの全人類史を「家族」という視点から書き換える。下は、「民主制」が元来、「野蛮」で「排外的」なものであることを明らかにし、「家族」から主要国の現状と未来を分析する。

産経新聞 2022/11/19

2022:10./ 316p
978-4-16-391612-5

¥2,420〔税込〕





大奥御用商人とその一族〜道具商山田屋の家伝より〜

畑 尚子 著

岩波書店

江戸城大奥や大名家に出入りしていたある道具商の家伝を読み解き、大奥を舞台に行われた商売の具体的な様子や、商家の女性たちの奥奉公の実態、奉公経験をその後の人生に生かした女性たちの活力あふれる生き方を描き出す。

産経新聞 2022/11/20

2022:10./ 9p,184p
978-4-00-061563-1

¥2,420〔税込〕



人はなぜ握手をするのか〜接触を求め続けてきた人類の歴史〜

エラ・アル=シャマヒー 著

草思社

人類誕生以前の時代の握手から、現代史に刻まれた著名人による握手、パンデミック期の「反握手」運動まで、古人類学者が古今東西の「握手」を縦横に考察。人類の根源的欲求「握手」の歴史と底力に迫る。

産経新聞 2022/11/20

2022:9./ 223p
978-4-7942-2597-9

¥1,980〔税込〕



ネットと朝ドラ(Real Sound Collection)

木俣 冬 著

blueprint

60年以上も国民的番組であり続けるNHKの「朝ドラ」は、なぜ平成、令和にセカンドブレイクようになったのか? 「ひよっこ」などSNSとともに盛り上がった朝ドラを、気鋭のドラマ評論家が徹底考察する。

産経新聞 2022/11/20

2022:10./ 375p
978-4-909852-33-5

¥2,750〔税込〕



クロコダイル・ティアーズ

雫井 脩介 著

文藝春秋

夫を殺した犯人は、かつての妻の恋人だった。この男が裁判で「妻に殺害を依頼された」と証言。美しき未亡人は、悪女なのか、それとも…。家族への疑念を描く、静謐なミステリー。『オール讀物』連載を単行本化。

産経新聞 2022/11/27

2022:9./ 331p
978-4-16-391598-2

¥1,760〔税込〕



サルタヒコのゆくえ〜仮面に隠された古代王朝の秘密〜

戸矢 学 著

河出書房新社

「日本書紀」に登場する異形の神・サルタヒコ。本当にニニギの天孫降臨の道案内をしたのか? なぜアメノウズメを献上されたのか? サルタヒコの祀られた場所を特定し、通説に隠れた秘密を明らかにする。

産経新聞 2022/11/27

2022:9./ 219p
978-4-309-22864-8

¥2,167〔税込〕





ポワロと私～デビッド・スーシェ自伝～

デビッド・スーシェ／ジェフリー・ワンセル 著

原書房

アガサ・クリスティーが生んだ名探偵ポワロ。四半世紀の間、ポワロを演じ続けた俳優は、何を大切にしてきたのか。“ポワロ俳優”として過ごしてきた四半世紀を余すところなく綴る。

産経新聞 2022/11/27

2022.10./ 381p 図版

12p

978-4-562-07199-9

¥2,970〔税込〕



梨の花(岩波文庫 緑 83-3)

中野 重治 著

岩波書店

誰も幼い時の記憶はある。が作者のそれは格別のものだ。読者はその克明な描写と温もりある越前の言葉づかいによって、良平少年とともに北陸の田舎にいることに気づく。ここには、雪の中の楽しい正月があり、馬の下をこわごわくぐり抜け、おばばの話に耳かたむける日々がある。こうして少年は成長していった。

朝日新聞 2022/11/05

1985.4./ 479p

978-4-00-310833-8

¥1,034〔税込〕



煙か土か食い物(講談社文庫)

舞城 王太郎 著

講談社

腕利きの救命外科医・奈津川四郎に凶報が届く。連続主婦殴打生き埋め事件の被害者におふくろが？ ヘイヘイヘイ、復讐は俺に任せろマザファッカー！ 故郷に戻った四郎を待つ血と暴力に彩られた凄絶なドラマ。破格の物語世界とスピード感あふれる文体で著者が衝撃デビューを飾った第 19 回メフィスト賞受賞作。（講談社文庫）これが噂の Maijo だ 小説界を席卷する「圧倒的文圧」を体感せよ！ 腕利きの救命外科医・奈津川四郎に凶報が届く。連続主婦殴打生き埋め事件の被害者におふくろが？ ヘイヘイヘイ、復讐は俺に任せろマザファッカー！ 故郷に戻った四郎を待つ血と暴力に彩られた凄絶なドラマ。破格の物語世界とスピード感あふれる文体で著者が衝撃デビューを飾った第 19 回メフィスト賞受賞作。

朝日新聞 2022/11/05

2004.12./ 342p

978-4-06-274936-7

¥748〔税込〕



子犬の絵画史(たのしい日本美術)

金子 信久 著

講談社

中国・朝鮮から伝わり、応挙が完成させた子犬の絵は、蘆雪をはじめ多くの後継者を経て、近代へとつながっていく。国内外の美術館・博物館、プライベートコレクションから選りすぐりの 116 点で、子犬の絵画史をひもとく。

朝日新聞 2022/11/05

2022.8./ 191p

978-4-06-528084-3

¥2,860〔税込〕





スイッチ〜悪意の実験〜(講談社文庫 し 122-1)

潮谷 駿 著

講談社

「純粋な悪」の存在を証明する実験のアルバイトに参加した学生達のスマホには、幸せな家族を破滅させるスイッチがインストールされる。押しても押さなくても1カ月後には高額な報酬が手に入り、押すメリットはないはずが...

朝日新聞 2022/11/05

2022:9./ 475p
978-4-06-529337-9

¥968〔税込〕



故郷(集英社文庫)

水上 勉 著

集英社

NYで成功した芦田夫妻は、三十年ぶりに若狭を訪れた。因習の残る故郷との再会で、変容する日本に戸惑いながらも、家族のあり方と安息の地を探し求める一族の物語。

朝日新聞 2022/11/05

2004:11./ 620p
978-4-08-747758-0

¥1,026〔税込〕



遠の眠りの

谷崎 由依 著

集英社

女工として働く絵子は、百貨店の支配人と知り合う。百貨店には専属の「少女歌劇団」があり、絵子は「お話係」として雇ってもらうことに。看板女優・キヨと仲良くなるが、実は彼女は...。『すばる』連載を加筆修正して単行本化。

朝日新聞 2022/11/05

2019:12./ 274p
978-4-08-771687-0

¥1,980〔税込〕



雁の寺・越前竹人形 改版(新潮文庫 み-7-3)

水上 勉 著

新潮社

乞食女の捨て子として惨めな日々を送ってきた少年僧慈念の、殺人にいたる鬱積した孤独な怨念の凝集を見詰める「雁の寺」と、はかない愛の姿を越前の竹林を背景に描く「越前竹人形」。水上勉の代表的名作2編を収める。

朝日新聞 2022/11/05

2012:12./ 341p
978-4-10-114103-9

¥649〔税込〕



父親たちにまつわる疑問(ハヤカワ・ミステリ文庫 HM 165-14)

マイクル・Z・リュースン 著

早川書房

私立探偵アルバート・サムスの事務所に、奇妙な青年がやってきた。彼は「地球外生命体と人間のハーフ」で、最近部屋に空き巣に入られ、宇宙人の父から贈られた貴重な石を盗まれたという。サムスは調査を引き受けるが...

朝日新聞 2022/11/05

2022:9./ 328p
978-4-15-078414-0

¥1,298〔税込〕





「神様」のいる家で育ちました～宗教２世な私たち～

菊池 真理子 著

文藝春秋

親が宗教を信仰している家の子供「宗教２世」。宗教ありきで育てられ、世間とはずいぶん違う生活を送っています。著者を含む７人の宗教２世たちが育ってきた家庭を描いたノンフィクションコミック。

朝日新聞 2022/11/05

2022:10./ 138p
978-4-16-090134-6

¥1,100〔税込〕



光あれ(文春文庫 は25-7)

馳 星周 著

文藝春秋

相原徹は、原発に税金と雇用を頼る街・敦賀から出ることなく、子供時代を過ごし、仕事を、家庭を持った。未来を描けない街での窒息しそうな日々を、水商売の女や妻子の間で揺れ惑いながら生きる徹が最後に見極めた人生とは。

朝日新聞 2022/11/05

2014:2./ 326p
978-4-16-790027-4

¥726〔税込〕



それぞれの山(徳間文庫 ひ24-10 南アルプス山岳救助隊 K-9)

樋口 明雄 著

徳間書店

かつて北岳で事件に遭遇したアイドル安西友梨香。次回作は山を舞台にするという作家の鷹森。２人は偶然同じ日に北岳を訪れ、成りゆきで一緒に頂上を目指すことに…。山岳救助隊と救助犬の活躍を描く２篇を収録。

朝日新聞 2022/11/05

2022:9./ 343p
978-4-19-894781-1

¥825〔税込〕



関東大震災描かれた朝鮮人虐殺を読み解く

新井勝紘 著

新日本出版社

関東大震災時、まったく根拠のない流言飛語の情報により命を絶たれた 6000 人を超える朝鮮人犠牲者たち。画家たちが残した朝鮮人虐殺絵を通して、その真相に斬り込む。

朝日新聞 2022/11/05

2022:8./ 158p
978-4-406-06681-5

¥1,870〔税込〕



イタリア料理の誕生

キャロル・ヘルストスキー 著

人文書院

アメリカへ渡った移民の存在と２つの大戦、そして、戦後の消費文化が食に及ぼした影響をたどることで、イタリア料理成立の歴史が見えてくる。複雑な食糧政策と庶民の反応を鮮やかに描く、食のイタリア現代史。

朝日新聞 2022/11/05

2022:8./ 357p
978-4-409-51094-0

¥3,740〔税込〕





ローマ帝国衰亡史～新訳～(PHP 文庫 え 21-1)

中倉 玄喜 編

エドワード・ギボン 著

PHP 研究所

1776 年発売の大著「ローマ帝国衰亡史」の原書の中から、各時代の代表的な章を選び翻訳。国家の衰亡、文明の衰退は必然なのかという人類永遠のテーマを考えるうえでの必読書。解説、ローマ帝国年表も収録。

朝日新聞 2022/11/05

2020/6./ 794p
978-4-569-90063-6

¥1,650〔税込〕



宇宙開発の不都合な真実

寺薗 淳也 著

彩図社

急増する宇宙ゴミ、不明確な宇宙資源の量、軍事技術と表裏一体の宇宙技術…。宇宙開発の知られざる問題を JAXA 元職員である惑星科学者が解説。不都合な真実を明らかにするとともに、宇宙との新しい向き合い方を提案する。

朝日新聞 2022/11/05

2022/9./ 207p
978-4-8013-0620-2

¥1,540〔税込〕



野蛮と宗教<2> 市民的統治の物語

J・G・A・ポーコック 著

名古屋大学出版会

エドワード・ギボン「ローマ帝国衰亡史」を読み解き、その知的文脈と独自性に迫る傑作。2 は、「ローマ帝国衰亡史」の執筆に大きな影響を与えた啓蒙の時代の歴史家・道徳哲学者を取り上げ、ギボンとの関係を文脈的に描き出す。

朝日新聞 2022/11/05

2022/9./
10p,394p,18p
978-4-8158-1096-2

¥7,480〔税込〕



数奇な航海～私は第五福龍丸～

川井龍介 著

旬報社

私の名前は第五福龍丸。1947 年に造られ、マグロをとる仕事をしていました。しかし、ある事件がきっかけで、私は漁船として使い物にならなくなってしまい…。死の灰を浴び、捨てられ、そして復活した、ある船の物語。

朝日新聞 2022/11/05

2022/9./ 186p
978-4-8451-1772-7

¥1,760〔税込〕



国際紛争はなぜ起こるか～ネオ・サイバネティックス紛争理論の構築～(桜美林大学叢書 vol.011)

加藤朗 著

論創社

ウクライナ戦争の現地調査で見たものは、歴史を数世紀も逆回転させたような古典的な国家間戦争であり、混沌であった。テロ・内戦・国家間戦争を事例として紛争理論を一般化する紛争研究家による書き下ろし理論研究。

朝日新聞 2022/11/05

2022/9./ 12p,329p
978-4-8460-2200-6

¥4,180〔税込〕





ザ・クイーン～エリザベス女王とイギリスが歩んだ一〇〇年～

マシュー・デニソン 著

カンゼン

スエズ動乱、フォークランド紛争から EU 離脱、新型コロナウイルス、ダイアナ元妃の事故死、孫夫婦の王室離脱まで。英国と世界の激動の歴史とともに生きた、エリザベス 2 世の生涯を描くノンフィクション。写真も多数掲載する。

朝日新聞 2022/11/05

2022/6./ 596p
978-4-86255-646-2

¥3,300〔税込〕



九頭竜川～鮎釣り漁師・愛子の希望～

大島 昌宏 著

つり人社

空襲、地震、大水害…。壊滅した福井の街で職漁師の祖父と暮らす 18 歳の愛子は、九頭竜川初の女漁師として自ら人生を切り拓く決意を固め…。未曾有の惨禍を乗り越え、懸命に生きる女鮎釣り漁師の姿を描いた幻の名作を復刊。

朝日新聞 2022/11/05

2022/7./ 333p
978-4-86447-399-6

¥1,980〔税込〕



本の幽霊

西崎憲 著

ナナロク社

ぼくは、ずっと探していた本を海外の古書店の通信販売で買った。本が届いてしばらくすると、奇妙なことが起こり…。表題作や、2017 年 8 月発売の電子書籍「ふゆのほん」など、全 6 作品を収録した短篇集。

朝日新聞 2022/11/05

2022/9./ 115p
978-4-86732-014-3

¥1,650〔税込〕



UNTITLED RECORDS

北島 敬三 著

BankART1929

荒涼とした平原に孤立して建つ小屋、老朽化著しい家屋の前に寂寞として広がる空の駐車場…。日常の片隅で繰り返される密やかな興隆と衰微を可視化する。北島敬三が 30 年以上にわたり日本各地の風景を撮り続けた写真集。

朝日新聞 2022/11/05

2022/8./ 189p
978-4-902736-53-3

¥5,280〔税込〕



掌に眠る舞台

小川 洋子 著

集英社

「レ・ミゼラブル」全公演に通う私は、劇場に住む「失敗係」の彼女と出会い…。ステージの此方と彼方で生まれる特別な関係を描く、美しく恐ろしい極上の短編集。全 8 編を収録。『すばる』掲載を書籍化。

朝日新聞 2022/11/05、東京・中日新聞 2022/11/20

2022/9./ 265p
978-4-08-771808-9

¥1,815〔税込〕





聞く技術聞いてもらう技術(ちくま新書 1686)

東畑 開人 著

筑摩書房

「聞く」は声が耳に入ってくること。「聞く」の不全が社会を覆ういまこそ「聞く」を再起動しなければならない。カウンセラーが、聞くための小手先の技術から、聞いてもらうことに備わる深いちからまでを紹介。

2022:10./ 249p
978-4-480-07509-3

¥946〔税込〕



朝日新聞 2022/11/05、日本経済新聞 2022/11/05



男性中心企業の終焉(文春新書 1383)

浜田 敬子 著

文藝春秋

ジェンダーギャップが日本に根強く残るのはなぜか。メルカリ、富士通、麒麟、丸紅など、働き方、価値観、組織を本気で変えようとする日本型企業の奮闘を、自身の体験を交えながら描き出す。

2022:10./ 279p
978-4-16-661383-0

¥1,078〔税込〕



朝日新聞 2022/11/05、毎日新聞 2022/11/12、東京・中日新聞 2022/11/13、日本経済新聞 2022/11/19



想起の文化～忘却から対話へ～

アライダ・アスマン 著

岩波書店

移民問題と右派台頭に揺れるドイツ。ホロコースト犠牲者の想起に向けられる不満や批判を、記憶文化論の第一人者が徹底的に検証し、出自や国境を越えた対話的想起の可能性を問う。人名索引付き。

2019:1./ 10p,265p,5p
978-4-00-023736-9

¥5,720〔税込〕



朝日新聞 2022/11/12



歴史とは何か 新版

E. H. カー 著

岩波書店

歴史は現在と過去のあいだの対話である-。名フレーズで知られる歴史と歴史学入門の古典的名著。初版の本文のほか、「第2版への序文」を新たに訳出し、晩年の自叙伝、略年譜なども加えた新版。

2022:5./
21p,371p,17p
978-4-00-025674-2

¥2,640〔税込〕



朝日新聞 2022/11/12



反応しない練習～あらゆる悩みが消えていくブッダの超・合理的な「考え方」～

草薙龍瞬 著

KADOKAWA

悩みは「消す」ことができる。そして、それには「方法」がある-。ブッダの「超・合理的で、超シンプル」な教えを日常生活に活かすには? “独立派”出家僧が教える、使える「原始仏教」入門。

2015:7./ 222p
978-4-04-103040-0

¥1,430〔税込〕



朝日新聞 2022/11/12



恋愛中毒(角川文庫)

山本 文緒、角川書店装丁室 著

角川書店

ー ー どうか、どうか、私。これから先の人生、他人を愛しすぎないように。他人を愛するぐらいなら、自分自身を愛するように。水無月の堅く閉ざされた心に、強引に踏み込んできた小説家の創路。調子がよくて甘ったれ、依存たっぷりの創路を前に、水無月の内側からある感情が湧き上がってくるー。世界の一部にすぎないはずの恋が、私のすべてをしばりつけるのはどうして。恋愛感情の極限を振り出す、戦慄のベストセラー小説。直木賞作家の原点。

朝日新聞 2022/11/12

2002:6./ 415p
978-4-04-197010-2

¥691〔税込〕



そして私は一人になった(角川文庫)

山本 文緒 著

角川書店

「六月七日、一人で暮らすようになってからは、私は私の食べたいものしか作らなくなった。」夫と別れ、はじめて一人暮らしをはじめた著者が味わう解放感と不安。心の揺れをありのままに綴った日記文学。

朝日新聞 2022/11/12

2008:2./ 250p
978-4-04-197014-0

¥616〔税込〕



再婚生活〜私のうつ闘病日記〜(角川文庫)

山本 文緒 著

角川書店

「仕事で賞をもらい、山手線の円の中にマンションを買い、再婚までした。恵まれすぎだと人という。人にはそう見えるんだろうな。」仕事、夫婦、鬱病。病んだ心と身体が少しずつ再生していくさまを日記形式で。

朝日新聞 2022/11/12

2009:10./ 308p
978-4-04-197016-4

¥704〔税込〕



自転しながら公転する(新潮文庫 や-66-2)

山本 文緒 著

新潮社

母の看病のため実家に戻ってきた 32 歳の都。アウトレットモールのアパレルで契約社員として働きながら、寿司職人の貫一と付き合いはじめるが…。結婚、仕事、親の介護、ぐるぐる思い惑いながら幸せを求める姿を描く。

朝日新聞 2022/11/12

2022:11./ 664p
978-4-10-136063-8

¥1,045〔税込〕





平櫛田中回顧談

本間 正義 編

平櫛 田中 著

中央公論新社

生いたち、長安寺の生活、岡倉天心の思い出、日本美術院の再興、鏡獅子の制作…。彫刻家・平櫛田中が自身の来し方を語った聞き書き記録。交流した芸術家、芸術界に関する貴重な証言も満載。巻頭に写真あり。

朝日新聞 2022/11/12

2022:9./ 341p

978-4-12-005573-7

¥2,420〔税込〕



死にがいを求めて生きているの(中公文庫 あ 92-2)

朝井リョウ 著

中央公論新社

植物状態のまま眠る青年と見守る友人。美しい繋がりに見えるふたりの“歪な真実”とは？朝井リョウ、天野純希、伊坂幸太郎らの競作企画「螺旋プロジェクト」による、若者たちの見えない傷と祈りに触れる物語。

朝日新聞 2022/11/12

2022:10./ 548p

978-4-12-207267-1

¥968〔税込〕



ばにらさま

山本 文緒 著

文藝春秋

冴えない会社員の広志にできた彼女は色白でとびきり可愛い“ばにらさま”。彼女は、バナナアイスみたいに冷たい…。痛くて、切なくて、引きずり込まれる。日常の向こう側に見える心のあり様を捉えた6篇。

朝日新聞 2022/11/12

2021:9./ 218p

978-4-16-391426-8

¥1,540〔税込〕



分子をはかる～がん検診から宇宙探査まで～(文春新書 1384)

藤井 敏博 著

文藝春秋

分子の質量を測定することで、物質の正体がわかる技術「質量分析法」。近年、飛躍的な進歩を遂げ、医療、環境問題、宇宙探査などで目覚ましい成果を挙げている先端技術を支える基本的な物理・化学の原理を簡単に解説する。

朝日新聞 2022/11/12

2022:10./ 198p

978-4-16-661384-7

¥1,100〔税込〕



プラナリア(文春文庫)

山本 文緒 著

文芸春秋

乳がんの手術以来、何もかも面倒くさい25歳の春香。出口を求めてさまよう「無職」の女たちを描いた直木賞受賞作、待望の文庫化。

朝日新聞 2022/11/12

2005:9./ 283p

978-4-16-770801-6

¥682〔税込〕





ファシズムの教室～なぜ集団は暴走するのか～

田野 大輔 著

大月書店

甲南大学の「ファシズムの体験学習」を紹介しながら、ファシズムの仕組みと成り立ちを集団行動の観点から社会的に解説。ナチスの大衆動員の実態から、ヘイトスピーチなど身近な問題までを論じる民主主義のための入門書。

朝日新聞 2022/11/12

2020:4./ 201p
978-4-272-21123-4

¥1,760〔税込〕



サピエンス全史～文明の構造と人類の幸福～<上>

ユ瓦尔・ノア・ハラリ 著

河出書房新社

アフリカでほそそと暮らしていたホモ・サピエンスが、食物連鎖の頂点に立ち、文明を築いたのはなぜか。その答えを解く鍵は「虚構」にある。人類史全体をたどること、我々はどのような存在なのかを明らかにする。

朝日新聞 2022/11/12

2016:9./ 267p
978-4-309-22671-2

¥2,090〔税込〕



サピエンス全史～文明の構造と人類の幸福～<下>

ユ瓦尔・ノア・ハラリ 著

河出書房新社

なぜ文明は爆発的な進歩を遂げ、ヨーロッパは世界の覇権を握ったのか?その答えは「帝国、科学、資本」のフィードバック・ループにあった。人類史全体をたどること、我々はどのような存在なのかを明らかにする。

朝日新聞 2022/11/12

2016:9./ 294p
978-4-309-22672-9

¥2,090〔税込〕



旧約聖書がわかる本～<対話>でひもとくその世界～(河出新書 055)

並木 浩一、奥泉 光 著

河出書房新社

旧約聖書とはどんな書物なのか?旧約聖書のテキストを引用しながら、小説のように自由で、思想書のように挑発的なその本質をつかみ出す、旧約聖書研究のプロとその下で学んだ異才の小説家の<対話>による入門書。

朝日新聞 2022/11/12

2022:9./ 434p
978-4-309-63156-1

¥1,397〔税込〕



理数探究の考え方(ちくま新書 1689)

石浦 章一 著

筑摩書房

高校では物化生地の理科のほかに「理数探究」という新しい科目が立ち上がった。どう学びを深め、どうアウトプットするか、数学の確率的思考や理科の実験のデザイン方法などについて、豊富な事例とともに紹介する。

朝日新聞 2022/11/12

2022:10./ 238p
978-4-480-07511-6

¥946〔税込〕





死に方がわからない

門賀美央子 著

双葉社

独身、子なし、兄弟姉妹なし。現在生きている三親等以内は全員年上。ポッチの私はいかに綺麗に人生を閉じるか-。実例を挙げながらユーモアあふれる文章で「死に方」を指南する。『COLORFUL』連載を書籍化。

朝日新聞 2022/11/12

2022.9./ 299p
978-4-575-31742-8

¥1,815〔税込〕



新しいアートのかたち～NFT アートは何を変えるか～(平凡社新書 1012)

施井 泰平 著

平凡社

多くの注目を集めている NFT アートについてわかりやすく説明するとともに、アートのなかの曖昧な部分を問い直すことで、アートの未来を考える。経済、現代アート、社会・メディアの専門家を迎えた対談も収録。

朝日新聞 2022/11/12

2022.9./ 267p
978-4-582-86012-2

¥1,056〔税込〕



ライオンのおやつ(ポプラ文庫 お5-5)

小川 糸 著

ポプラ社

若くして余命を告げられた雫は、残りの日々を瀬戸内の島のホスピスで過ごすことを決めた。穏やかな景色の中、本当にしたかったことを考える雫。ホスピスでは毎週日曜日、入居者がリクエストできる「おやつの時間」があって…。

朝日新聞 2022/11/12

2022.10./ 276p
978-4-591-17506-4

¥792〔税込〕



近代中国の新疆統治～多民族統合の再編と帝国の遺産～(慶應義塾大学東アジア研究所現代中国研究選書)

木下 恵二 著

慶應義塾大学出版会

「帝国の遺産」はどのように継承されたのか。「中華」という伝統的アイデンティティ、秩序安定のためのソ連型「自治的」民族政策の導入。近代以降の中国の他民族統合のありかたを、新疆地域に焦点を当てながら明らかにする。

朝日新聞 2022/11/12

2022.9./ 233p,17p
978-4-7664-2841-4

¥4,950〔税込〕



私たちに記憶すべきことがある～韓国人権紀行～

朴来群 著

高文研

死者の記憶が未来をひらく-。光州虐殺の責任者処罰を要求して焼身自殺した弟の遺志を受けた人権活動家が、済州島・光州・ソウルなど帝国日本と軍事独裁政権の加害の現場を歩き、犠牲となった人びとの哭声に耳を澄ます。

朝日新聞 2022/11/12

2022.9./ 330p
978-4-87498-812-1

¥3,300〔税込〕





「歴史」の体制～現在主義と時間経験～

フランソワ・アルトール・グ、伊藤 綾 著

藤原書店

歴史学・古典学・文学・人類学など諸学を横断し、「世界遺産」や環境問題など今日のトピックをも視野に収めつつ描く、「歴史」の歴史。現代社会の時間秩序＝「歴史」の体制たる「現在主義」の本質に迫る。

朝日新聞 2022/11/12

2008.12./ 382p
978-4-89434-663-5

¥5,060〔税込〕



1日長いと感じられる日が、時々でもあるといい

小沼理 著

タバックス

新型コロナウイルス、東京オリンピック、元首相銃撃事件。著しい社会変化があった3度の夏、それでも生活は続いていく。迷い、怒り、喜び、苦しみ、考え、先へ向かう、ゲイのフリーランスライターが綴った3年間の日記。

朝日新聞 2022/11/12

2022.10./ 268p
978-4-907053-57-4

¥1,980〔税込〕



無人島のふたり～120日以上生きなくちゃ日記～

山本 文緒 著

新潮社

ある日突然がんと診断され、夫とふたり、無人島に流されてしまったかのような日々が始まった-。58歳で余命宣告を受け、それでも最期まで書くことを手放さなかった作家の闘病記。

朝日新聞 2022/11/12、毎日新聞 2022/11/26

2022.10./ 168p
978-4-10-308013-8

¥1,650〔税込〕



インディアス史<1>(岩波文庫)

石原 保徳 編

ラス=カサス 著

岩波書店

著者(1484-1566)がその後半生を通して書き継ぎ訂正を加えた同時代史。コロンブスによる新世界の発見から説き起こし、自らもその一員であったスペイン人植民者による圧政と残虐の実態を明らかにする。全7冊同時刊行。

朝日新聞 2022/11/19

2009.3./ 436p
978-4-00-334272-5

¥1,034〔税込〕



ひどい民話を語る会

京極 夏彦／多田 克己／村上 健司／黒 史郎 著

KADOKAWA

なぜ「桃太郎」のお婆さんは川へ洗濯に行ったのか？ メジャーな昔話の陰には数々の「ひどい民話」が埋もれている。民話と妖怪を愛好する面々が、知られざる民話の世界を語る。イベント「ひどい民話を語る会」等を基に書籍化。

朝日新聞 2022/11/19

2022.10./ 173p
978-4-04-112327-0

¥1,650〔税込〕





神曲<地獄篇>(角川ソフィア文庫 C150-1)

ダンテ 著

KADOKAWA

詩人ダンテは地獄の門をくぐり 9 つの圏谷を降りてゆく。地上での罪により呵責を受ける魂の叫び。ダンテは恐れ慄きながらも言葉を交わし、人間とは、罪とは何かを探る。ボッティチェリの素描も収録した西洋古典文学の神髄。

朝日新聞 2022/11/19

2013.11./ 441p
978-4-04-406907-0

¥968〔税込〕



神曲<煉獄篇>(角川ソフィア文庫 C150-2)

ダンテ 著

KADOKAWA

煉獄の山にたどり着いたダンテは、贖罪の途にいる数々の魂と出会い、自らの師ウェルギリウスに叱咤を受けながら、天上への入り口となる山頂を目指す。ボッティチェリの素描も収録した西洋古典文学の神髄。

朝日新聞 2022/11/19

2013.11./ 425p
978-4-04-406908-7

¥968〔税込〕



神曲<天国篇>(角川ソフィア文庫 C150-3)

ダンテ 著

KADOKAWA

天を昇りはじめたダンテ。地獄と煉獄を経て湧いた疑問を語る彼にベアトリーチェや聖なる魂が神の真理を説く。至高天にたどり着いた彼は、ついにその目で神の姿を捉え…。ボッティチェリの素描も収録した西洋古典文学の神髄。

朝日新聞 2022/11/19

2013.11./ 452p
978-4-04-406909-4

¥968〔税込〕



ifの世界線〜改変歴史 SF アンソロジー〜(講談社タイガ フ C-04)

石川 宗生／小川 一水／斜線堂 有紀／伴名 練／宮内 悠介 著

講談社

死ぬまで踊り続ける奇病が蔓延したイタリア。1965年に起きた世界初の SNS 炎上事件。和歌を“詠詠”する平安時代…。5人の SF 作家による改変歴史アンソロジー。『小説現代』掲載を文庫化。

朝日新聞 2022/11/19

2022.10./ 284p
978-4-06-529626-4

¥759〔税込〕



日本共産党〜「革命」を夢見た 100 年〜(中公新書 2695)

中北 浩爾 著

中央公論新社

戦前から高度成長期に、巨大な政治的磁場を作った日本共産党は、政権を担える社会民主主義政党になったのか。一貫して「革命」を目指しつつも大きく変化した 100 年の歴史を追い、国際比較と現状分析を交え同党の全貌を描く。

朝日新聞 2022/11/19

2022.5./ 5p,440p
978-4-12-102695-8

¥1,210〔税込〕





傑作!文豪たちの『徳川家康』短編小説(宝島社文庫 この時代小説がすごい! C あ-30-1)

芥川 龍之介／池波 正太郎／滝口 康彦／南條 範夫／火坂 雅志／山田 風太郎／山本 周五郎 著
宝島社

そのとき家康はどうした!? 次々と襲いかかる試練に立ち向かう徳川家康とその家臣たちの姿を描いた歴史時代小説アンソロジー。山本周五郎「御馬印拝借」、芥川龍之介「古千屋」など全7作品を収録する。

朝日新聞 2022/11/19

2022.11./ 283p
978-4-299-03596-7

¥770〔税込〕



石が書く

ロジェ・カイヨワ 著
創元社

聖なるもの、遊び、神話、詩学、夢といったテーマを縦横に論じてきた「知の巨人」カイヨワが、自らの石コレクションをもとに、<石の美は、普遍的な美の存在を示している>と論じた名著を新訳。石のカラー図版も多数収録。

朝日新聞 2022/11/19

2022.8./ 134p
978-4-422-44036-1

¥4,620〔税込〕



日本新劇全史<第3巻> 昭和四十一年～昭和六十四年

大笹 吉雄 著
白水社

非商業的な方向の中で、創作劇か翻訳劇かを問わず、「劇」という芸術形式に対する革新を持続的に目指す演劇「新劇」の通史。第3巻は、小劇場運動が活性化し、社会現象ともなった昭和41年～64年の新たな演劇の息吹を記す。

朝日新聞 2022/11/19

2022.11./ 870p,53p
978-4-560-09426-6

¥41,800〔税込〕



はらぺこ〜<美味>時代小説傑作選〜(PHP 文芸文庫 み 1-22)

細谷 正充 編
宮部 みゆき、朝井 まかて、近藤 史恵、中島 久恵、五十嵐 佳子 著
PHP 研究所

妻と離縁したいが、持参金を使い切ったために別れられずにいる乾物屋の主人。食べすぎで出戻ってきた姉を大喰い会に参加させ賞金を稼ごうとするが…。朝井まかて「福袋」をはじめ、江戸の美味を描いた全5編を収録する。

朝日新聞 2022/11/19

2022.10./ 315p
978-4-569-90248-7

¥924〔税込〕



暴力のエスノグラフィー〜産業化された屠殺と視界の政治〜

ティモシー・パチラット 著
明石書店

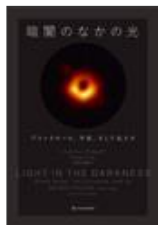
1日に2500頭の牛が食肉処理される産業屠殺場に、覆面労働者として政治学者が潜入。現代社会における監視と権力、暴力の恩恵を受ける多数者の矛盾と欺瞞、そして<視界の政治>の輪郭を浮かび上がらせる。

朝日新聞 2022/11/19

2022.9./ 372p
978-4-7503-5447-7

¥3,080〔税込〕





暗闇のなかの光〜ブラックホール、宇宙、そして私たち〜

ハイノー・ファルケ／イェルク・レーマー 著

亜紀書房

2019年4月、100年の時をかけて、初めて画像で直接証明されたブラックホールの存在。プロジェクト実現のため、世界中の電波望遠鏡のネットワーク作りに奔走した研究者が語る、壮大なサイエンスノンフィクション。

朝日新聞 2022/11/19

2022:9/
435p,24p,17p
978-4-7505-1760-5

¥2,970〔税込〕



狂気な倫理〜「愚か」で「不可解」で「無価値」とされる生の肯定〜

小西 真理子／河原 梓水 著

晃洋書房

家族、性、障害や病…。規範が絶対視されることで、規範的とされる生の外側に生きることは「愚か」で「不可解」で「無価値」とされる。そんな生に「意味」を見出そうとする論考13を収録する。

朝日新聞 2022/11/19

2022:8/ 12p,297p
978-4-7710-3655-0

¥2,970〔税込〕



フェミニスト・シティ

レスリー・カーン 著

晶文社

なぜ、ベビーカーは電車に載せづらいのか？男性基準で計画された都市で、女性たちはどう生き延びてきたか？フェミニズム地理学の視点から、現代都市のかかえるさまざまな課題とその解決の方向性を考える。

朝日新聞 2022/11/19

2022:9/ 279p
978-4-7949-7329-0

¥2,200〔税込〕



ここは鴨川ゲーム製作所(バンブーコミックス)

スケラッコ 著

竹書房

空き家になった祖母の家で、偶然子どもの頃に描いた絵を見つけたヨウ。その絵を見た瞬間、体に稲妻が走りゲームのアイデアが次々と溢れてきてー!?仲間を集めてゼロからゲーム開発!京都を舞台に繰り広げられる不格好で愛おしい、オトナの青春群像劇。

朝日新聞 2022/11/19

2022:10/ 144p
978-4-8019-7868-3

¥792〔税込〕



偶然の散歩

森田真生 著

ミシマ社

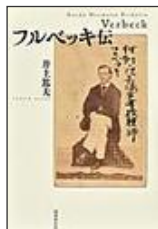
思索、子供との時間、今という瞬間…。偶然の日々の中で、一度きりのすぐ近くにある、永遠をつかみたい-その思いを胸に、つづられ、あふれてきた、詩のような言葉たちを収めたエッセイ集。『日経新聞』等掲載を加筆修正。

朝日新聞 2022/11/19

2022:9/ 234p
978-4-909394-74-3

¥2,200〔税込〕





フルベッキ伝

井上篤夫 著

国書刊行会

明治天皇や明治政府に厚遇され、滞在すること 40 年。日本の近代化に大きな役割を果たしたフルベッキの知られざる生涯を、生地オランダも含めたゆかりの地での綿密な取材と、新発見・未公開の資料を縦横に駆使して描く。

朝日新聞 2022/11/19、読売新聞 2022/11/27

2022:9./ 408p,11p
978-4-336-06306-9

¥3,520〔税込〕



陰謀論～民主主義を揺るがすメカニズム～(中公新書 2722)

秦正樹 著

中央公論新社

荒唐無稽な言説が多くの人に信じられ、政治的影響力すら持つのはなぜか。実証研究の成果に基づき、陰謀論受容のメカニズムを解説。日本で蔓延する陰謀論の実態などを交えながら、「民主主義の病」への対抗法を指南する。

朝日新聞 2022/11/19、日本経済新聞 2022/11/26

2022:10./ 6p,250p
978-4-12-102722-1

¥946〔税込〕



スピノザ～読む人の肖像～(岩波新書 新赤版 1944)

國分 功一郎 著

岩波書店

思考を極限まで厳密に突き詰めたがゆえに実践的であるという、驚くべき哲学プログラムを作り上げたスピノザ。難解とされるその全体像を徹底的に読み解き、かつてない哲学者像を描き出す。

朝日新聞 2022/11/19、毎日新聞 2022/11/26

2022:10./ 5p,414p
978-4-00-431944-3

¥1,408〔税込〕



星ぼしでめぐるギリシア神話(岩波少年文庫 256)

百々 佑利子、花松 あゆみ 著

岩波書店

惑星に名を留めるオリュムポスの神々、ヘラクレスの挑戦や天馬ペガソスなど、星座に結びつけられてきた英雄や動物たち。何千年もの時を超え、人々にうたわれ、語り継がれてきたギリシア神話を、夜空に広がる星ぼしから物語る。

朝日新聞 2022/11/26

2022:8./ 352p,8p
978-4-00-114256-3

¥924〔税込〕



室生犀星俳句集(岩波文庫 31-066-5)

岸本 尚毅 著

岩波書店

鯛の骨たたみにひらふ夜寒かな 人と自然への細やかな情愛、日本語の質朴な美しさに満ちた室生犀星の俳句を、少年時代の佳品も含めて精選し、年代順に収録。犀星の俳論、娘・室生朝子の随筆も収載する。

朝日新聞 2022/11/26

2022:10./ 267p
978-4-00-310665-5

¥704〔税込〕





記者がひもとく「少年」事件史〜少年がナイフを握るたび大人たちは理由を探す〜(岩波新書 新赤版 1941)

川名 壮志 著

岩波書店

殺人犯が少年だとわかるたびに、報道と世間は、実名か匿名か、社会の責任か個人の責任か揺れた。成人年齢が引き下げられる中、戦後の新聞報道を振り返り、大人と少年の境の揺らぎが示す社会のひずみを見つめる。

朝日新聞 2022/11/26

2022:9./ 7p,227p
978-4-00-431941-2

¥946〔税込〕



介護者D

河崎秋子 著

朝日新聞出版

30歳、契約社員、未婚の琴美は、何となく住んでいる東京から、父の介護のため、札幌へ戻ることを決めた。まだ何者にもなれていない琴美の唯一の救いは「推し」の存在で…。『小説トリッパー』連載を加筆し書籍化。

朝日新聞 2022/11/26

2022:9./ 283p
978-4-02-251855-2

¥1,870〔税込〕



この道をどこまでも行くんだ(角川文庫 し 6-40)

椎名 誠 著

KADOKAWA

チベット、シベリア、パタゴニア…。訪れる土地土地には、人の、動物の、あらゆる生き物の営みがあった。カメラのレンズを通してその躍動を見つめてきた著者が、スケール感のある写真と瑞々しい文章で綴る地球の記録。

朝日新聞 2022/11/26

2022:10./ 223p
978-4-04-113004-9

¥770〔税込〕



星に仄めかされて

多和田 葉子 著

講談社

留学中に「母国の島国」が消滅してしまった女性、Hiruko がつくり出した独自の言語<パンスカ>は、見知らぬ人々を結びつけ…。「地球にちりばめられて」に続く、国境を越えたサーガ第2部。『群像』連載を単行本化。

朝日新聞 2022/11/26

2020:5./ 342p
978-4-06-519029-6

¥1,980〔税込〕



地球にちりばめられて(講談社文庫 た 74-5)

多和田 葉子 著

講談社

留学中に故郷の島国が消滅してしまった女性 Hiruko は、ヨーロッパ大陸で生き抜くため、独自の言語<パンスカ>をつくり出す。彼女は言語学を研究する青年とともに、自分と同じ母語を話す者を探す旅に出て…。

朝日新聞 2022/11/26

2021:9./ 349p
978-4-06-523815-8

¥792〔税込〕





太陽諸島

多和田 葉子 著

講談社

消えた故郷の島国を探して、仲間たちと船の旅に出た Hiruko。沿岸の港町で謎めいた人物が乗り込んできて…。言葉で結びついた仲間たちの時空を超えた出会いと冒険を描く。連作長篇 3 部作、完結。『群像』連載を単行本化。

朝日新聞 2022/11/26

2022:10./ 335p
978-4-06-529185-6

¥2,090〔税込〕



わたしはスペクトラム

リビー・スコット、レベッカ・ウエストコット 著

小学館

10 歳の女の子タリーは、感情がコントロールできなくなって爆発したり、空気が読まなくてトラブルを起こしてしまったりする。けれど、それには理由があって…。自閉スペクトラム症の女の子が実体験をもとにえがく物語。

朝日新聞 2022/11/26

2022:11./ 351p
978-4-09-290663-1

¥1,650〔税込〕



徳川家康の決断～桶狭間から関ヶ原、大坂の陣まで 10 の選択～(中公新書 2723)

本多隆成 著

中央公論新社

今川・織田の両雄に挟まれ、弱小勢力として出発し、戦国乱世を勝ち抜き、天下を制した徳川家康。三方原の合戦、本能寺の変、関ヶ原の合戦、大坂の陣など、家康が迫られた 10 の選択を軸に波瀾の生涯を描く。

朝日新聞 2022/11/26

2022:10./ 4p,287p
978-4-12-102723-8

¥990〔税込〕



史伝北条政子～鎌倉幕府を導いた尼将軍～(NHK 出版新書 673)

山本 みなみ 著

N H K 出版

頼朝亡きあとの幕府を、北条政子はいかにして守ったのか。北条氏の編集物である「吾妻鏡」をはじめ、新出史料や京都側の史料、考古学の成果を踏まえながら、類いまれなる政治力を発揮した女傑の全貌を明らかにする。

朝日新聞 2022/11/26

2022:5./ 270p
978-4-14-088673-1

¥968〔税込〕



新説家康と三方原合戦～生涯唯一の大敗を読み解く～(NHK 出版新書 688)

平山 優 著

N H K 出版

若き家康に絶体絶命の危機をもたらした、その後の戦国史を大きく転換させた三方原合戦。そこで何が起きたのか。かの家康が大敗を喫したのはなぜか。家康最大の「ターニングポイント」となった合戦の真相と、歴史的意義に迫る。

朝日新聞 2022/11/26

2022:11./ 215p
978-4-14-088688-5

¥968〔税込〕





本当の貧困の話をしよう～未来を変える方程式～(文春文庫 い 73-3)

石井 光太 著

文藝春秋

君たちが幸せをつかむために今知るべきこと。国内外の最底辺を取材し続けてきた著者が、想像を絶する貧困のリアルから様々な支援の方策までを、17歳に全力で伝える講義。人生や社会に革命をもたらすための方程式を示す。

朝日新聞 2022/11/26

2022:11./ 287p
978-4-16-791963-4

¥836〔税込〕



女帝の古代王権史(ちくま新書 1555)

義江 明子 著

筑摩書房

古代天皇継承は、男系にも女系の双方を含む「双系」的なものだった。卑弥呼、推古、持統らに焦点を当て、古代王権史の流れを一望。日本人の女帝像、ひいては男系の万世一系という天皇像を書き換える。

朝日新聞 2022/11/26

2021:3./ 252p
978-4-480-07381-5

¥924〔税込〕



家(チベ)の歴史を書く(ちくま文庫 は 56-1)

朴 沙羅 著

筑摩書房

「私の家族はいつどのように、どうして済州島から大阪へとやってきたのか。その後どうやって生きたのか」 気鋭の社会学者による、家族への親愛と歴史への洞察に満ちた、自身の家(チベ)の記録。

朝日新聞 2022/11/26

2022:10./ 381p
978-4-480-43847-8

¥990〔税込〕



ぼくたちはまだ出逢っていない(teens' best selections 62)

八束 澄子 著

ポプラ社

イギリス人と日本人のハーフでいじめに悩む陸。母親の再婚相手の家に岡山から越してきた美雨。「漆」に導かれてめぐりあったふたりの世界が、少しずつ変わっていき…。伝統技法「金継ぎ」に彩られた出逢いと修復の物語。

朝日新聞 2022/11/26

2022:10./ 295p
978-4-591-17499-9

¥1,540〔税込〕



藤原彰子(人物叢書 新装版 通巻 294)

服藤 早苗 著

吉川弘文館

一条天皇の中宮・藤原彰子。藤原道長の長女として生まれ、二人の天皇の母として、また天皇家の家長として、院政への架け橋となった。その87年の生涯を、「御堂関白記」「小右記」などに残された痕跡から浮かび上がらせる。

朝日新聞 2022/11/26

2019:6./ 15p,286p
978-4-642-05287-0

¥2,420〔税込〕





北条政子～尼将軍の時代～(歴史文化ライブラリー)

野村 育世 著

吉川弘文館

草創期の鎌倉幕府を率い激動の時代を生きた尼将軍・北条政子。その政治手腕はもちろん、心性やライフサイクルも追い、新しい政子像を描く。同時に、彼女と共に躍動する中世女性たちをも照射する。〈ソフトカバー〉

朝日新聞 2022/11/26

2000:7./ 191p
978-4-642-05499-7

¥1,870〔税込〕



古代の女性官僚～女官の出世・結婚・引退～(歴史文化ライブラリー 390)

伊集院 葉子 著

吉川弘文館

日本古代の宮廷で活躍した女官=女性官僚とは、いかなる人びとだったのか。出仕のルートや日常業務、出世や俸給、結婚や引退、死に至るまでのライフコースを辿り、天皇の政務と日常生活を支えた女性の生き方を描く。

朝日新聞 2022/11/26

2014:12./ 7p,246p
978-4-642-05790-5

¥1,980〔税込〕



切り裂きジャックに殺されたのは誰か～5人の女性たちの語られざる人生～

ハリー・ルーベンホルド 著

青土社

1888年ロンドン。5人の女性たちが2か月のあいだに殺人鬼「切り裂きジャック」に殺された。被害者の5人の女性たちの人生をよみがえらせ、社会の暴力をつまびらかにする、鎮魂と告発のノンフィクション。

朝日新聞 2022/11/26

2022:9./ 411p,9p
978-4-7917-7499-9

¥3,520〔税込〕



ヤジと民主主義

北海道放送報道部道警ヤジ排除問題取材班 著

ころから

2019年7月15日、札幌。街頭演説する安倍晋三総理にヤジを飛ばした人たちを、北海道警察が強制的に排除した。小さな自由が排除された先にあるのは-。事件の深層を地元放送局が追ったドキュメンタリー。

朝日新聞 2022/11/26

2022:11./ 271p
978-4-907239-65-7

¥1,980〔税込〕



遅れた花～私の写真ノート～

酒井 忠康 著

クレヴィス

幕末・明治から現代に至る、広大な美術の森を渉猟し、近代美術の研究、現代美術の評論活動を重ねた著者が、永年にわたる美術館での展示活動や内外の作家たちとの交流から見えた「写真の世界」を描く。

朝日新聞 2022/11/26

2022:9./ 190p
978-4-909532-87-9

¥1,980〔税込〕





ネアンデルタール

レベッカ・ウラッグ・サイクス 著

筑摩書房

けが人をケアし、肉を加熱調理し、ホモ・サピエンスと交配した、ネアンデルタール。「わたしたちにもっとも近い人類」の文化や暮らしを、最新の研究をもとにいきいきと描く。見返しに図表あり。

朝日新聞 2022/11/26、日本経済新聞 2022/11/26

2022:10./ 604p,9p
978-4-480-86094-1

¥3,960〔税込〕



歴史をこじらせた女たち

篠 綾子 著

文藝春秋

持統天皇、北条政子、日野富子、淀殿…。もし彼女たちがいなかったら、歴史はどうなっていたのか？ 古代のロイヤルプリンセスから幕末の姫君まで、33人の「歴史こじらせ女子」を紹介する。

東京・中日新聞 2022/11/06

2022:9./ 318p
978-4-16-391589-0

¥1,760〔税込〕



レッドクローバー

まさき としか 著

幻冬舎

東京のバーベキュー場で起こったヒ素による大量殺傷事件。記者の勝木は、12年前の灰戸町一家殺害事件の、ただ一人の生存者、赤井三葉を思いだす。あの日、薄汚れたゴミ屋敷で一体何があったのか。そして少女は今-。

東京・中日新聞 2022/11/06

2022:8./ 429p
978-4-344-03996-4

¥1,980〔税込〕



日朝交渉 30 年史(ちくま新書 1680)

和田 春樹 著

筑摩書房

歴代の首相や外交官が試みた交渉はなぜ頓挫したのか？ 日朝両国が再び歩み寄る手があるのか？ 国交交渉が始まった 1991 年にさかのぼり、膨大な資料と当事者たちの貴重な証言から、失敗の背景を徹底検証する。

東京・中日新聞 2022/11/06

2022:9./ 264p,6p
978-4-480-07507-9

¥968〔税込〕



荒畑寒村～叛逆の文字とこしえに～(ミネルヴァ日本評伝選)

川村 邦光 著

ミネルヴァ書房

日露非戦論に感銘を受けて 19 歳にして社会主義運動に身を投じた荒畑寒村。多くの思想家と交流しながら共に活動を展開、社会への対抗・批判を続け、思索を深めていった。敗北と挫折に満ちた社会主義思想家の一生を追う。

東京・中日新聞 2022/11/06

2022:8./
19p,405p,17p
978-4-623-09450-9

¥4,400〔税込〕





夏日狂想

窪 美澄 著

新潮社

私は男たちの夢より、自分の夢を叶えたかった。書くという夢を。さまざまな文学者との恋の果てに、礼子が掴んだものは？ 激動の現代史を背景に、懸命に生き抜いた「書く女」の生涯を描く。『小説新潮』連載を書籍化。

東京・中日新聞 2022/11/13

2022:9./ 380p
978-4-10-325926-8

¥1,980〔税込〕



ポスト資本主義の欲望〜マーク・フィッシャー最終講義〜

マット・コフーン 編

マーク・フィッシャー、大橋 完太郎 著

左右社

2017年1月に逝去したイギリスの批評家マーク・フィッシャーが、ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジで行った最終講義を書籍化。学生たちとの対話から、現代のディストピアから脱出する道を探る。

東京・中日新聞 2022/11/13

2022:7./ 340p,38p
978-4-86528-096-8

¥2,970〔税込〕



太陽が死んだ日

閻 連科 著

河出書房新社

ある日突然、伏牛山脈のある村で謎の病「夢遊」が伝染しはじめる。昼の世界の秩序は崩壊し、隠された欲望をむき出しにする人々。夢遊の間を取り払う太陽は生き返るのか？ 現代中国の矛盾を正面から描く。

東京・中日新聞 2022/11/13、朝日新聞 2022/11/19、日本経済新聞 2022/11/26

2022:9./ 339p
978-4-309-20861-9

¥3,960〔税込〕



スマホ・デトックスの時代〜「金魚」をすくうデジタル文明論〜

ブリュノ・パティノ 著

白水社

フランス発、スマホ依存症を脱するための処方箋。GAFAM やプラットフォームビジネスの恐るべき収益モデル「アテンション・エコノミー」の罠にはまることなくデジタルメディアと健康的につきあう方法を解説する。

東京・中日新聞 2022/11/20

2022:10./ 174p,7p
978-4-560-09459-4

¥2,090〔税込〕



戦時下、占領下の日常〜大分オーラルヒストリー〜

エドガー・A・ポーター 著

みすず書房

真珠湾攻撃最終演習がおこなわれた佐伯、「最後の特攻」が発進した大分、宇佐、別府…。日中戦争、太平洋戦争から占領期まで、戦地や国内で敗戦を迎えた兵士たち、銃後に、米軍の間接統治下に生きた人々の貴重な歴史証言。

東京・中日新聞 2022/11/20

2022:9./ 341p
978-4-622-08998-8

¥4,070〔税込〕





ジャーナリストと謝野晶子

松村由利子 著

短歌研究社

与謝野晶子は新聞や雑誌から社会評論の執筆を依頼される寄稿家だった。歌人としてデビューした晶子がどんなふうに関心を持って社会評論を書き始め、論考や思想を深めていったのか、さまざまな角度から考察する。『短歌研究』連載を加筆。

東京・中日新聞 2022/11/20

2022:9./ 323p,7p
978-4-86272-720-6

¥2,750〔税込〕



奇跡のプリマ・ドンナ〜オペラ歌手・三浦環の「声」を求めて〜

大石 みちこ 著

KADOKAWA

オペラ<蝶々夫人>の海外 2000 回公演、財界人・芸術家が周囲を彩った数奇な運命…。明治～昭和期に「声」ひとつでプリマ・ドンナの階段を駆け上がった三浦環。膨大な資料から、その人間像とドラマを綴るノンフィクション。

東京・中日新聞 2022/11/27

2022:10./ 294p
978-4-04-605622-1

¥2,530〔税込〕



評伝モハメド・アリ〜アメリカで最も憎まれたチャンピオン〜

ジョナサン・アイグ 著

岩波書店

不遜な態度で最も嫌われた世界ヘビー級チャンピオンは、いかにして史上最も愛される「反逆のアイコン」になったのか？ モハメド・アリの知られざる悲劇を、多数の関係者への取材、新資料から描きだす。

読売新聞 2022/11/06

2022:9./
15p,589p,16p
978-4-00-024548-7

¥3,960〔税込〕



風土記博物誌〜神、暮らし、自然〜

三浦 佑之 著

岩波書店

いざ古代日本列島のフィールドワークへ！ 1300 年の時を超えて、人と自然とその営みを今に伝える風土記。伝承のことばに分け入り、ゆかりの土地を訪ね、いにしえの世界のすがたに迫る。

読売新聞 2022/11/06

2022:10./
18p,279p,5p
978-4-00-061560-0

¥2,970〔税込〕



レペゼン母

宇野 碧 著

講談社

梅農家を営むおかんの唯一の気がかりは、借金まみれのダメ息子・雄大のこと。ある日、偶然にも雄大がラップバトルの大会に出場することを知り、明子はマイクを握り立ち上がる…。『小説現代』掲載を書籍化。

読売新聞 2022/11/06

2022:8./ 283p
978-4-06-527646-4

¥1,540〔税込〕





宿無し弘文〜スティーブ・ジョブズの禅僧〜(集英社文庫 や 62-1)

柳田 由紀子 著

集英社

スティーブ・ジョブズが師と仰ぎ、アップル社の思想に禅境のひらめきを与えた僧侶・乙川弘文。だが、彼は“禅道無宿”、自ら願って地獄に堕ちた。夥しい関係者の証言からその死の謎に迫るノンフィクション。

2022:9./ 406p
978-4-08-744437-7

¥1,045〔税込〕



読売新聞 2022/11/06



本を守ろうとする猫の話(小学館文庫 な 13-5)

夏川 草介 著

小学館

高校生の夏木林太郎は、祖父を突然亡くした。祖父が営んでいた古書店をたたみ、叔母に引き取られることになった林太郎の前に、人間の言葉を話すトラネコが現れる。トラネコは本を守るために林太郎の力を借りたいといい....。

2022:9./ 284p
978-4-09-406684-5

¥715〔税込〕



読売新聞 2022/11/06



1Q84〜a novel〜<BOOK1 前編> 4月-6月(新潮文庫 む 5-27)

村上 春樹 著

新潮社

好もうが好むまいが、私は今この「1Q84年」に身を置いている。私の知っていた1984年はもうどこにも存在しない...。ヤナーチェックの「シンフォニエッタ」に導かれ、青豆と天吾の不思議な物語がはじまる。

2012:4./ 357p
978-4-10-100159-3

¥737〔税込〕



読売新聞 2022/11/06



1Q84〜a novel〜<BOOK1 後編> 4月-6月(新潮文庫 む 5-28)

村上 春樹 著

新潮社

ふかえりを、ほかの少女たちと比べることなんてできない。彼女はおれにとって何らかの意味を持っている。なのにそのメッセージを読み解くことができない...。謎に満ちた「1Q84年の世界」を生きる天吾と青豆の運命は？

2012:4./ 362p
978-4-10-100160-9

¥737〔税込〕



読売新聞 2022/11/06



1Q84〜a novel〜<BOOK2 前編> 7月-9月(新潮文庫 む 5-29)

村上 春樹 著

新潮社

心から一步も外に出ないものごとなんて、この世界には存在しない...。雷鳴とどろく夜、青豆はさきがけのリーダーから「秘密」を明かされる。天吾と父親の宿命的な再会、そして猫の町。2人が迷いこんだ世界の謎はまだ消えない。

2012:5./ 345p
978-4-10-100161-6

¥693〔税込〕



読売新聞 2022/11/06



1Q84～a novel～<BOOK2 後編> 7月-9月(新潮文庫 む5-30)

村上 春樹 著

新潮社

青豆、と天吾は言った。僕はかならず君をみつける…。天吾と青豆、空に2つの月が浮かぶ1Q84年の世界で、2人はもう一度めぐり逢えるのか。深い森の中へ分け入るように、物語は続いていく。

読売新聞 2022/11/06

2012:5./ 308p
978-4-10-100162-3

¥693〔税込〕



1Q84～a novel～<BOOK3 前編> 10月-12月(新潮文庫 む5-31)

村上 春樹 著

新潮社

「さががけ」のリーダーは「何か」を知っていた。とても大事なことを。暗闇の中でうごめく追跡者牛河、天吾が迷いこんだ海辺の「猫の町」、青豆が宿した小さき生命…。1Q84年、混沌の世界を貫く謎は、解かれるのか？

読売新聞 2022/11/06

2012:6./ 391p
978-4-10-100163-0

¥737〔税込〕



1Q84～a novel～<BOOK3 後編> 10月-12月(新潮文庫 む5-32)

村上 春樹 著

新潮社

長く滑らかな指、そして強い芯を持っている。青豆、と天吾は思った。青豆と天吾、二人は「物語」の深い森を抜けてめぐり逢い、その手を結び合わせることができるのか。ひとつきりの月が浮かぶ夜空に向かって…。

読売新聞 2022/11/06

2012:6./ 394p
978-4-10-100164-7

¥737〔税込〕



人生はそれでも続く(新潮新書 963)

読売新聞社会部「あれから」取材班 著

新潮社

対戦相手が死亡したレスラー、日本発の飛び入学者、キラキラネームを改名した男性、「3年B組金八先生」の「腐ったミカン」…。日本中が注目した「あの人」22人のその後を徹底取材。『読売新聞』掲載を書籍化。

読売新聞 2022/11/06

2022:8./ 236p
978-4-10-610963-8

¥902〔税込〕



国鉄～「日本最大の企業」の栄光と崩壊～(中公新書 2714)

石井 幸孝 著

中央公論新社

1949年設立の国鉄は戦後の高度成長を支えたが、交通手段の多様化により経営は悪化、1987年に分割民営化された。国鉄の歴史に何を学ぶか。JR九州初代社長が、国鉄の誕生、発展、そして衰退を語る。

読売新聞 2022/11/06

2022:8./ 4p,382p
978-4-12-102714-6

¥1,210〔税込〕





尚、赫々たれ～立花宗茂残照～

羽鳥 好之 著

早川書房

神君家康はいかにして「関ヶ原」を勝ち抜いたのか、考えを聞かせてほしい。三代将軍家光から諮問を受けた立花宗茂の語りによって、やがて解き明かされる天下を分けた決戦の不可解さ、家康の深謀と西軍敗走の真相…。

読売新聞 2022/11/06

2022:10./ 297p
978-4-15-210179-2

¥2,200〔税込〕



追憶の作家たち(文春新書)

宮田 稔栄 著

文芸春秋

松本清張、埴谷雄高、大岡昇平、島尾敏雄、石川淳ら、7人の作家の知られざる側面を周密に描く一文芸誌「海」元編集長の回想録

読売新聞 2022/11/06

2004:3./ 249p
978-4-16-660372-5

¥792〔税込〕



経営12カ条～経営者として貫くべきこと～

稲盛 和夫 著

日経BP社

「どうすれば会社経営がうまくいくのか」という経営の原理原則を、著者の経験をもとに、Q&Aを交えわかりやすく解説する。盛和塾で行った講話をもとに書籍化。

読売新聞 2022/11/06

2022:9./ 243p
978-4-296-11498-6

¥1,870〔税込〕



勝負の店

久住昌之 著

光文社

旅先や散歩中に出会った飲食店。ネットで検索はいっさいせず、店をよーく見て、想像力をたぎらせる。「孤独のグルメ」の原作者が、自分の足で探した「勝負の店」に挑むエッセイ 38篇。『おとなの週末』連載に加筆修正。

読売新聞 2022/11/06

2022:9./ 238p
978-4-334-95329-4

¥1,650〔税込〕



合作探偵小説コレクション<1> 五階の窓/江川蘭子

日下三蔵 編

春陽堂書店

昭和のミステリ黄金期を彩った作家たちによるリレー式ミステリ・合作探偵小説。1は、「五階の窓」「江川蘭子」「殺人迷路」など、江戸川乱歩が参加した初期4作品を収録する。編者解説、執筆者プロフィールも掲載。

読売新聞 2022/11/06

2022:10./ 381p
978-4-394-77011-4

¥4,180〔税込〕





にっぽんの鉄道 150年～蒸気機関車から新幹線、リニアへ～(平凡社新書 1011)

野田 隆 著

平凡社

日本初の鉄道が開業してから 150 年。これまで飛躍的に発展してきた鉄道だが、近年は赤字路線の廃止が相次いでいる。150 年の歴史をおもなトピックで振り返り、最先端の車両や新たな路線計画にも触れる。

読売新聞 2022/11/06

2022:9./ 302p
978-4-582-86011-5

¥1,100〔税込〕



いきている山

ナン・シェパード 著

みすず書房

山の「内側」や「奥地」を求めて山に入り続けたナン。五感を解放し、光、影、水、風、土、草花、鳥、雨などいきている山の営みに出会い直す。詩性溢れる文章で自然と肉体の交感を語ったネイチャーライティングの名作。

読売新聞 2022/11/06

2022:10./ 230p
978-4-622-09529-3

¥3,520〔税込〕



その日本語、ヨロシイですか?〜楽しい校閲教室〜(草思社文庫 い 10-1)

井上 孝夫 著

草思社

「圧倒的な映像」「手練れの職人」「余生を振り返る」って何か変? 日々、言葉と格闘している新潮社校閲部の部長が、奥深い日本語の世界を案内する。クイズも掲載。

読売新聞 2022/11/06

2022:10./ 262p
978-4-7942-2607-5

¥990〔税込〕



SF 作家の地球旅行記

柞刈 湯葉 著

産業編集センター

首里城、筑波山、ウラジオストク、モンゴルの草原…。行ったことのない場所に、特に理由もなく行きたくなる SF 作家の目を通して楽しむ新感覚旅行記。note 掲載に書き下ろしを加え書籍化。

読売新聞 2022/11/06

2022:9./ 263p
978-4-86311-341-1

¥1,760〔税込〕



江戸狛犬図鑑

荒 勝俊 著

さくら舎

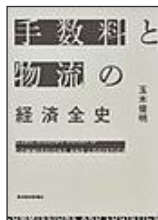
美顔、ひょうきん顔。子持ち、玉持ち。厚顔、痩せ顔…。東京 23 区を中心に、1600 年代～2000 年代と年代不詳の個性豊かな 240 寺社の狛犬たちを写真、由来とともに紹介する。狛犬の歴史、索引も掲載。

読売新聞 2022/11/06

2022:9./ 173p
978-4-86581-359-3

¥2,640〔税込〕





手数料と物流の経済全史

玉木 俊明 著
東洋経済新報社

経済を動かすのは、工業力ではなく、経済の枠組みを決めるプラットフォームである。プラットフォームを形成するものこそ経済的覇権を握るという考え方にもとづき、出アフリカから現代までの歴史を描く。

2022:10./ 398p
978-4-492-68150-3

¥2,200〔税込〕



読売新聞 2022/11/06、日本経済新聞 2022/11/26、東京・中日新聞 2022/11/27



天国の修羅たち(角川文庫 ふ 40-3)

深町 秋生 著
KADOKAWA

怖れ知らずの老ジャーナリストが惨殺された。相棒のマル暴刑事・樺島と独自の捜査を始めた警視庁捜査一課の真里亜は、気づけば警視庁を揺るがす陰謀に巻き込まれていて…。書き下ろしノンストップクライムサスペンス。

2022:8./ 285p
978-4-04-111941-9

¥836〔税込〕



読売新聞 2022/11/13

はじめての構造主義(講談社現代新書)

橋爪 大三郎 著
講談社

西欧文明中心の近代に終わりを告げ現代思想に新しい地平を拓いた構造主義。レヴィ＝ストロースの親族・神話研究の、鮮やかな方法と発想の背景に見えてくる、ソーシャル言語学やモースの贈与論。そして遠近法にまでさかのぼる、数学史の水脈に隠された〈構造〉のルーツ。モダニズムからポスト構造主義への知の戦線に、軽快な文章で歯切れよく迫る！ (講談社現代新書) 現代思想の原点がビックリするほどよくわかる【入門書の決定版！】 西欧文明中心の近代に終わりを告げ、現代思想に新しい地平を拓いた構造主義。レヴィ＝ストロースの親族・神話研究の、鮮やかな方法と発想の背景に見えてくる、ソーシャル言語学やモースの贈与論。そして遠近法にまでさかのぼる、数学史の水脈に隠された〈構造〉のルーツ。モダニズムからポスト構造主義への知の戦線に、軽快な文章で歯切れよく迫る。【はしがきより】 この本の題を、『はじめての構造主義』といいます。「はじめての」と断るからには、「構造主義」なんて聞いたことない、一体それなあに？という人にも、わかってもらわないといけません。そこで、ちょっと進んだ高校生、いや、かなりおませな中学生の皆さんにも読んでいただけるように、書いてみました。…… この本は、小さな本ですが、構造主義のいちばん大切なところがわかるように、心をこめて書きました。ですから、おしまいまでお読みくだされば、構造主義とは何なのか、かなりすっきりした見通しが得られるはずです。【目次】 第一章 「構造主義」とは何か 第二章 レヴィ＝ストロース：構造主義の旗揚げ！ 第三章 構造主義のルーツ 第四章 構造主義に関わる人びと：ブックガイド風に 第五章 結び

1988:5./ 232p
978-4-06-148898-4

¥946〔税込〕



読売新聞 2022/11/13



ポール・ヴァレリーの遺言～わたしたちはどんな時代を生きているのか?～

保苅 瑞穂 著

集英社

パリで暮らしたフランス文学の泰斗が邂逅する、さまざまな時代の記憶のなかの人々。激動の時代を生きたポール・ヴァレリーの思索を導きの糸に綴った最後の随想集。『すばる』掲載を書籍化。

読売新聞 2022/11/13

2022:7./ 376p
978-4-08-771790-7

¥2,750〔税込〕



ふだん使いの言語学～「ことばの基礎力」を鍛えるヒント～(新潮選書)

川添 愛 著

新潮社

言いたいことがうまく言えない、思うように伝わらない…。頭の中の<無意識の言語知識>を明らかにする理論言語学の知見を使い、単語の多義性や曖昧性、意味解釈の広がり方や狭まり方、文脈や背景との関係を身近な例から解説。

読売新聞 2022/11/13

2021:1./ 235p
978-4-10-603862-4

¥1,595〔税込〕



ルポ誰が国語力を殺すのか

石井 光太 著

文藝春秋

子供たちの国語力が失われているのはなぜなのか。「ごんぎつね」の読めない小学生、反省文の書けない高校生などの具体例を挙げながら、言葉を失った子供たちの実態と、国語力回復の道筋を描く渾身のルポ。

読売新聞 2022/11/13

2022:7./ 330p
978-4-16-391575-3

¥1,760〔税込〕



ウクライナ戦争の200日(文春新書 1378)

小泉 悠 著

文藝春秋

ウクライナ戦争はなぜ終わらないのか、両国の戦略とは-。ロシアの軍事・安全保障研究者が、東浩紀(評論家・作家)、高橋杉雄(防衛研究所防衛政策研究室長)、ヤマザキマリ(漫画家・文筆家)ら7人の識者と語り合う。

読売新聞 2022/11/13

2022:9./ 267p
978-4-16-661378-6

¥935〔税込〕



豚の報い(文春文庫)

又吉 栄喜 著

文芸春秋

突如スナックに闖入してきた豚の厄を払うため正吉と三人の女は島に向かった。芥川賞受賞の表題作と「背中の夾竹桃」を収録する

読売新聞 2022/11/13

1999:2./ 235p
978-4-16-761801-8

¥471〔税込〕





戦争日記～鉛筆 1 本で描いたウクライナのある家族の日々～

オリガ・グレベンニク 著

河出書房新社

子どもたちの腕に名前と生年月日、連絡先を書いた。万が一、死んでしまっても、身元が分かるように…。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まってから地下生活をへて国外に脱出するまでの実体験を、文章と絵で綴った日記。

読売新聞 2022/11/13

2022:9./ 133p
978-4-309-20863-3

¥1,595〔税込〕



屋根裏に誰かいるんですよ。～都市伝説の精神病理～(河出文庫 か 17-4)

春日 武彦 著

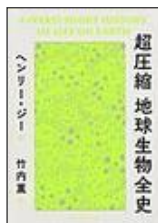
河出書房新社

自分の家の屋根裏などあまり立ち入らない薄暗い空間に、見知らぬ人物がいつの間にか棲みつき、悪戯したり、騒ぎ声を立てたりする…日常と非日常の間でうごめく、不可思議な都市伝説の物語に、精神科医がメスを入れる。

読売新聞 2022/11/13

2022:10./ 234p
978-4-309-41926-8

¥924〔税込〕



超圧縮地球生物全史

ヘンリー・ジー 著

ダイヤモンド社

「地球の誕生」から「サピエンスの終末」まで、全歴史を凝縮! 多くの生物の絶滅と進化のドラマや、ホモ・サピエンスはどのような生物か、地球にはどのような未来が待っているかなど、生命 38 億年の旅を詩的に紹介する。

読売新聞 2022/11/13

2022:8./ 379p,19p
978-4-478-11427-8

¥2,200〔税込〕



犠牲者意識ナショナリズム～国境を超える「記憶」の戦争～

林 志弦 著

東洋経済新報社

植民地主義や世界大戦、ジェノサイドで犠牲となった歴史的記憶を後の世代が継承し、自分たちを犠牲者とみなして正当化を図るナショナリズム。世界各地で激しさを増している、記憶が引き起こす歴史認識紛争に警鐘を鳴らす書。

読売新聞 2022/11/13

2022:7./ 19p,529p
978-4-492-21252-3

¥3,520〔税込〕



ヒップホップ・ラップの授業づくり～「わたし」と「社会」を表現し伝えるために～

磯田 三津子／晋平太 著

明石書店

ヒップホップ、ラップは、子どもたちが社会正義を語ることで重要な表現方法。著者がラッパー晋平太とともに試みた授業実践を元に、幅広い教育現場での授業展開を提案する。ワークシート、サンプル視聴用 QR コード付き。

読売新聞 2022/11/13

2021:11./ 158p
978-4-7503-5289-3

¥2,200〔税込〕





怪談未満

三好 愛 著

柏書房

わからないこと、腑に落ちないこと、少しゾッとしてしまうこと、私の中に初めて<人間>が宿ったこと…。日常におけるなんだか「もやもや」する出来事や、産むことの不思議を綴る。

読売新聞 2022/11/13

2022:7./ 172p
978-4-7601-5462-3

¥1,650〔税込〕



生まれてバンザイ

俵 万智 著

童話屋

バンザイの姿勢で 眠りいる吾子よ そうだバンザイ 生まれてバンザイ 歌人・俵万智が、息子を身ごもってから、出産し、幼稚園を卒園するころまでに詠んだ短歌を中心に収録。

読売新聞 2022/11/13

2010:10./ 153p
978-4-88747-104-7

¥1,650〔税込〕



ミラノの森

山本浩二 著

羽鳥書店

ミラノの扉の奥には鬱蒼とした森が広がっている。その奥深さはまた、人であり、歴史でもある。2千年の時が流れるミラノの街に30年暮らしてきた画家が、芸術の深淵と多くの人々との出会いを澄明な筆致で綴る。

読売新聞 2022/11/13

2022:9./ 239p
978-4-904702-88-8

¥2,640〔税込〕



情報セキュリティの敗北史～脆弱性はどこから来たのか～

アンドリュー・スチュワート 著

白揚社

個人情報の大規模漏洩、米・中・露のハッキング戦争、ランサムウェアによる身代金要求…。システムにはなぜ危険が増え続けるのか。ITの黎明期からクラウドコンピューティングに至るまで、情報セキュリティの歴史を網羅する。

読売新聞 2022/11/13、朝日新聞 2022/11/19

2022:10./ 406p
978-4-8269-0243-4

¥3,300〔税込〕



会話を哲学する～コミュニケーションとマニピュレーション～(光文社新書1215)

三木 那由他 著

光文社

会話とは言葉をもって互いに影響を与え合う営みなのか？ 漫画や小説など27のフィクション作品を題材に、コミュニケーションとマニピュレーションという2つの観点から、会話という行為の魅力を解き明かす。

読売新聞 2022/11/13、朝日新聞 2022/11/26

2022:8./ 299p
978-4-334-04622-4

¥1,012〔税込〕





ゴシックハート(ちくま文庫 た72-3)

高原 英理 著

筑摩書房

いくつかの飛躍と変質はありながらも、「ゴシック」という名の感受性は一貫した世界を作り上げてきた。死と暗黒、耽美と残酷に彩られたゴシック世界の全貌を描く本格「ゴシック」評論。新章&書き下ろしを加えた増補新版。

読売新聞 2022/11/13、日本経済新聞 2022/11/19

2022:10./ 321p
978-4-480-43845-4

¥990〔税込〕



中国パンダ外交史(講談社選書メチエ 773)

家永 真幸 著

講談社

蒋介石の対米工作、周恩来の日中国交回復、習近平の一带一路構想…。パンダの価値に気付いた中国政府が国際政治にパンダを利用し始めた過程を解説し、パンダがどのような役割を果たしているのか考察する。

読売新聞 2022/11/13、日本経済新聞 2022/11/19、産経新聞 2022/11/27

2022:10./ 201p
978-4-560-52972-8

¥1,760〔税込〕



キューバ・ミサイル危機〜広島・長崎から核戦争の瀬戸際へ 1945-62〜<上>

マーティン・J・シャーウィン 著

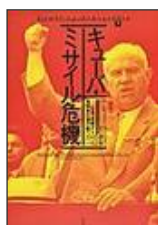
白水社

1962年10月、人類は「最終戦争」の断崖に立った。原爆開発から冷戦下の米ソ核軍拡競争に至る文脈にキューバ・ミサイル危機を位置づけ、一触即発の攻防の深層を描く。口絵写真も多く収録。

読売新聞 2022/11/13、毎日新聞 2022/11/26

2022:8./ 301p,75p
978-4-560-09448-8

¥4,400〔税込〕



キューバ・ミサイル危機〜広島・長崎から核戦争の瀬戸際へ 1945-62〜<下>

マーティン・J・シャーウィン 著

白水社

「最終戦争」を免れたのは、実はほんの偶然にすぎなかった。なぜ軍事的選択が海上封鎖に踏みとどまり、外交的解決につながったのか？核管理・軍縮論の第一人者が、キューバ・ミサイル危機を徹底検証する。

読売新聞 2022/11/13、毎日新聞 2022/11/26

2022:10./ 327p,77p
978-4-560-09449-5

¥4,400〔税込〕



1.5℃の気候危機〜脱炭素で豊かな経済、ネットゼロ社会へ〜(知の新書 environment G03)

松下 和夫 著

読書人

気候危機が現実化するなか、脱炭素市場をめぐる大競争が始まっている。世界に遅れをとっている日本の気候対策のガラパゴス化を世界の動きから検証し、脱炭素への経済・社会の抜本的転換を訴える。

読売新聞 2022/11/13、毎日新聞 2022/11/26

2022:11./ 191p
978-4-924671-72-0

¥1,430〔税込〕





“正しい”を疑え!(岩波ジュニア新書 957)

真山 仁 著

岩波書店

不安と不信が蔓延する社会で、何を拠りどころにすればよいのか。社会派ベストセラー作家が困難な時代を生きる人々への魂のメッセージを綴る。自分を信じて自分らしく生きるためのヒントが満載。

2022:9./ 18p,179p
978-4-00-500957-2

¥946〔税込〕



読売新聞 2022/11/20



ピエタとトランジ(講談社文庫 ふ 83-2)

藤野 可織 著

講談社

天才的な頭脳を持つ女子高生探偵トランジと、助手に名乗り出たピエタ。トランジは事件を誘発させる体質で、次から次に周囲で人が死んでいく。あるとき、トランジに秘められた事実が明らかになり-

2022:10./ 330p
978-4-06-529580-9

¥792〔税込〕



読売新聞 2022/11/20



白髪のアリス～田村セツコ式紙とえんぴつ♡健康法～

田村 セツコ 著

集英社

セツコ語録はお茶目ゴージャス! 女性イラストレーターの草分け、田村セツコが、自身の分身「白髪のアリス」を進行役に綴った、カラーイラスト満載の自伝的エッセイ。絵日記教室、大人のぬりえなども収録する。

2022:8./ 127p
978-4-08-781718-8

¥1,980〔税込〕



読売新聞 2022/11/20



ふがいない僕は空を見た(新潮文庫 く-44-1)

窪 美澄 著

新潮社

高校1年の斉藤くんは、年上の主婦・あんずと週に何度かセックスしている。やがて、彼女への気持ちが性欲だけではなくてきたことに気づくのだが…。2012年11月公開映画の原作。

2012:10./ 318p
978-4-10-139141-0

¥605〔税込〕



読売新聞 2022/11/20



あの子とQ

万城目 学 著

新潮社

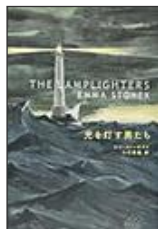
普段は吸血鬼であることを意識せず過ごす高校生・嵐野弓子の前に、「Q」と名乗るばけものが現れた。弓子が17歳の誕生日を迎えるまでの10日間、人間の血を吸わないか監視しに来たと言うが…。『週刊新潮』連載を単行本化。

2022:8./ 380p
978-4-10-336013-1

¥1,760〔税込〕



読売新聞 2022/11/20



光を灯す男たち(CREST BOOKS)

エマ・ストーンクス 著

新潮社

英国の最南端、絶海の灯台から、3人の男たちが忽然と姿を消した。灯台は内側から施錠されており、食事も手つかずのまま。灯台守とその妻たちに何が起きていたのか？
実在する未解決事件を元にした文芸ミステリ。

読売新聞 2022/11/20

2022:8./ 382p
978-4-10-590183-7

¥2,640〔税込〕



タール・ベイビー(ハヤカワ epi 文庫 トニ・モリスン・セレクション 105)

トニ・モリスン 著

早川書房

白人の大富豪の庇護を受けて育ちソルボンヌ大学を卒業した娘と、黒人だけに囲まれてフロリダの小さな町で育った青年。カリブ海の小島で2人は偶然に知り合った。異なるがゆえに惹かれあい、そしてすれちがい、傷つけていく....。

読売新聞 2022/11/20

2022:10./ 573p
978-4-15-120105-9

¥1,980〔税込〕



プロトコル・オブ・ヒューマニティ

長谷 敏司 著

早川書房

コンテンポラリーダンサーの恒明は、事故で右足を失いAI制御の義足を身につける。彼は、人のダンスとロボットのダンスを分ける人間性の手続き「プロトコル」を表現しようとするが、待ち受けていたのは新たな地獄だった....。

読売新聞 2022/11/20

2022:10./ 292p
978-4-15-210178-5

¥2,090〔税込〕



イギリスはおいしい(文春文庫)

林 望 著

文藝春秋

まずいハズのイギリスは美味であった!? 嘘だと思ふならご覧あれ--イギリス料理を語りつつ、イギリス文化の香りも味わえる日本エッセイスト・クラブ賞受賞作。文庫版新レシピ付き。

読売新聞 2022/11/20

1995:9./ 267p
978-4-16-757002-6

¥682〔税込〕



日本文学全集<04> 源氏物語(上)

河出書房新社

池澤夏樹個人編集による日本文学全集。04は、54帖から成る世界最古の長篇小説「源氏物語」の「桐壺」から「少女」までを、角田光代による完全新訳で収録する。しおり付き。

読売新聞 2022/11/20

2017:9./ 689p
978-4-309-72874-2

¥3,850〔税込〕





日本文学全集<05> 源氏物語(中)

河出書房新社

池澤夏樹個人編集による日本文学全集。05 は、54 帖から成る世界最古の長篇小説「源氏物語」の「玉鬘」から「幻」までを、角田光代による完全新訳で収録する。解説付き。

読売新聞 2022/11/20

2018.11./ 661p
978-4-309-72875-9

¥3,850〔税込〕



日本文学全集<06> 源氏物語(下)

河出書房新社

池澤夏樹個人編集による日本文学全集。06 は、54 帖から成る世界最古の長篇小説「源氏物語」の「匂宮」から「夢浮橋」までを、角田光代による完全新訳で収録する。解説付き。

読売新聞 2022/11/20

2020.2./ 637p
978-4-309-72876-6

¥3,850〔税込〕



日本文学全集<07> 枕草子/方丈記/徒然草

河出書房新社

池澤夏樹個人編集による日本文学全集。07 は、自然や人間の本来を鋭い感性で綴った、現代に通じる三大随筆「枕草子」「方丈記」「徒然草」を、酒井順子、高橋源一郎、内田樹による斬新な新訳で全訳収録。解説つき。

読売新聞 2022/11/20

2016.11./ 531p
978-4-309-72877-3

¥3,080〔税込〕



日本文学全集<09> 平家物語

河出書房新社

池澤夏樹個人編集による日本文学全集。09 は、無常観を基調に描かれた軍記物として琵琶法師により語り継がれ、後世日本の文学や演劇などに多大な影響を与えた「平家物語」を、古川日出男の完全訳で収録。解説つき。

読売新聞 2022/11/20

2016.12./ 905p
978-4-309-72879-7

¥3,850〔税込〕



謹訳源氏物語<1> 改訂新修(祥伝社文庫 は 18-1)

紫式部 著

祥伝社

原典の持つ深く豊かな文学世界を、正確な解釈と自然な口語訳で、現代小説のようにすらすら読める源氏物語。1 は、桐壺・帚木・空蟬・夕顔・若紫を収録。

読売新聞 2022/11/20

2017.9./ 410p
978-4-396-31716-4

¥792〔税込〕





謹訳平家物語<1>

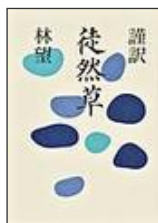
祥伝社

「平家物語」の魅力をあますところなく甦らせる現代語訳の決定版。1 は、巻第一から巻第三までを収録。どのページもきれいに開いて読みやすい、写本を彷彿とさせる糸綴じの「コデックス装」本。

読売新聞 2022/11/20

2015:4./ 317p
978-4-396-61523-9

¥1,760〔税込〕



謹訳徒然草

林 望 著

祥伝社

或る時は人生の万般を考え、或る時は世の理不尽や愚かな人に憤慨し、或る時は珍談奇話を書き留める。随筆文学の最高峰、全 243 段現代語訳の決定版。本体は背表紙なし糸綴じ。

読売新聞 2022/11/20

2021:12./ 300p
978-4-396-61775-2

¥1,980〔税込〕



民具のデザイン図鑑～くらしの道具から読み解く造形の発想～

武蔵野美術大学 民俗資料室 編

誠文堂新光社

身近な素材を使い、くらしの道具として形づくられた民具。武蔵野美術大学で教鞭をとった民俗学者・宮本常一の研究活動に端を発し、民俗資料室に収集されてきたさまざまな民具を、造形デザインの観点から読み解く。

読売新聞 2022/11/20

2022:10./ 191p
978-4-416-62200-1

¥2,420〔税込〕



励ます禅語～「茶禅一味」の境地に学ぶ～

金嶽 宗信 著

東洋経済新報社

八風吹不動(=風は放っておけば過ぎ去る。いたずらに動揺する必要はない)...。茶の湯と禅語の聖地大徳寺で修行した和尚が、500 年以上も茶室で語り継がれてきた禅語の意味を解き明かす。月刊『遠州』連載を加筆修正。

読売新聞 2022/11/20

2022:10./ 247p
978-4-492-04708-8

¥1,650〔税込〕



反乱者(エクス・リブリス)

ジーナ・アポストル 著

白水社

フィリピン出身のミステリー作家兼翻訳者マグサリンは、新作小説の案を練り始める。そこへ一件のメールが届く。送信者はその小説の主人公である、映画監督キアラで…。時空を超越する、米比戦争の虐殺事件をめぐる物語。

読売新聞 2022/11/20

2022:11./ 339p
978-4-560-09078-7

¥4,070〔税込〕





はなごよみ〜<草花>時代小説傑作選〜(PHP 文芸文庫 み 1-21)

細谷 正充 編

宮部 みゆき、諸田 玲子、梶 よう子、廣嶋 玲子、中島 要、浮穴 みみ 著

PHP 研究所

吉原一の人気花魁・唐橋は、間夫と別れさせられて悲しむ妹分の紅鶴に着せるために、百花繚乱の「いろはの打掛」を仕立て直し…。「吉原桜」をはじめ、女性作家が四季折々の花を背景に江戸っ子の人情を描いた短編 6 編を収録。

読売新聞 2022/11/20

2022/9./ 316p
978-4-569-90237-1

¥924〔税込〕



人に優しいロボットのデザイン〜「なんもしない」の心の科学〜

高橋 英之 著

福村出版

心から人を癒やし、勇気づけるロボットとは。「レンタルなんもしない人」との出会いをきっかけに、心理学、脳科学、認知科学、哲学を飛び回り、「あい」あるロボットの可能性や「何もしない」ことの価値について考察する。

読売新聞 2022/11/20

2022/9./ 214p
978-4-571-21044-0

¥2,640〔税込〕



憲法からよむ政治思想史

高山 裕二 著

有斐閣

政教分離、国民主権、基本的人権、地方自治、平和主義などの理念には、それぞれに由来となる政治思想史がある。日本国憲法の条文を手がかりに、その根底にある西洋の政治思想の歴史をよみ解く。

読売新聞 2022/11/20

2022/9./ 16p,299p
978-4-641-14941-0

¥2,310〔税込〕



ケルトの解剖図鑑〜「ケルト」を知ればヨーロッパがますます面白くなる〜

原 聖 著

エクスナレッジ

キリスト教が広まる前のヨーロッパに存在していたケルト文化。ケルト諸語を基盤としてケルト文化をとらえ、歴史・神話・美術・考古学など、さまざまな角度からその全体像にせまり、イラストとともに紹介する。

読売新聞 2022/11/20

2022/8./ 159p
978-4-7678-3054-4

¥1,848〔税込〕



ドラッカー研究〜思索の展開と焦点〜(文眞堂現代経営学選集 2-14)

春日 賢 著

文眞堂

ドラッカーにおける「新しい社会」「新しい人間」、そして「マネジメント」とは何か？ 今改めてドラッカーを内面的に読み込み、見過ごされてきた思想的枠組みを指摘して、ドラッカー研究の新しい地平を拓く。

読売新聞 2022/11/20

2022/8./ 11p,335p
978-4-8309-5150-3

¥3,960〔税込〕





オスとは何で、メスとは何か?～「性スペクトラム」という最前線～(NHK 出版新書 683)

諸橋 憲一郎 著

N H K 出版

性は生涯変わり続けている? 全ての細胞と、その集まりである臓器や器官は独自に性を持っている? さまざまな生き物の多様な雄雌のあり方と、それを形づくる仕組みを解説し、二項対立では語り切れない性本来の姿を明かす。

読売新聞 2022/11/20、東京・中日新聞 2022/11/27

2022:10./ 205p
978-4-14-088683-0

¥1,045〔税込〕



古代ギリシアの民主政(岩波新書 新赤版 1943)

橋場 弦 著

岩波書店

民主政はどのように生まれ、発展し、消え去ったか。どんなしくみで動いていたのか。2000 年以上も前に史上から消えたとされる民主政が、どのような形で近代に復活し、現代に至ったのか。研究成果を織り込みながら論考する。

読売新聞 2022/11/27

2022:9./ 3p,245p,11p
978-4-00-431943-6

¥990〔税込〕



後鳥羽伝説殺人事件(角川文庫)

内田 康夫 著

角川書店

一人旅の女性が古書店で見つけた一冊の本。彼女がその本を手にした時、後鳥羽伝説の地を舞台にした殺人劇の幕は切って落とされた! 浮かび上がった意外な犯人とは。名探偵・浅見光彦の初登場作!

読売新聞 2022/11/27

1985:1./ 298 p
978-4-04-160701-5

¥572〔税込〕



斎王の葬列(角川文庫)

内田 康夫 著

角川書店

映画のロケ現場付近のダムに浮かんだ男の水死体。浅見光彦は、旧友である監督の白井からロケ隊の嫌疑を晴らす依頼を受ける。その直後に起こる第二の殺人。滋賀県を舞台に、歴史の闇に葬られた悲劇が蘇る。

読売新聞 2022/11/27

1997:5./ 375p
978-4-04-160738-1

¥748〔税込〕



見立て日本(角川ソフィア文庫 L499-2)

松岡 正剛 著

KADOKAWA

連想や暗示によって物事の意外な本質をうがち、仄めかす「見立て」。21 世紀の日本を切り取ったカラー写真と、120 のキーワードを合わせ、平成令和の虚実皮膜を射抜く。『週刊ポスト』連載に大幅加筆し文庫化。

読売新聞 2022/11/27

2022:9./ 494p
978-4-04-400712-6

¥2,200〔税込〕



四つの終止符(講談社文庫)

西村 京太郎 著

講談社

下町のおもちゃ工場で働く晋一は耳の不自由な青年だった。ある日、心臓病で寝たきりの母が怪死する。栄養剤から砒素が検出されたとき、容疑は晋一に集中した。すべてが不利な中で彼は無実を叫びつつ憤死する。そして馴染みのホステスも後を追う。彼をハメたのは誰？ ヒューマニズムに裏打ちされた秀作。(講談社文庫) 下町のおもちゃ工場で働く晋一は耳の不自由な青年だった。ある日、心臓病で寝たきりの母が怪死する。栄養剤から砒素が検出されたとき、容疑は晋一に集中した。すべてが不利な中で彼は無実を叫びつつ憤死する。そして馴染みのホステスも後を追う。彼をハメたのは誰？ ヒューマニズムに裏打ちされた秀作。

読売新聞 2022/11/27

1981:1./ 297p
978-4-06-136212-3

¥565〔税込〕



戸隠伝説殺人事件(講談社文庫 う 5-49)

内田 康夫 著

講談社

戸隠の大規模開発のキーマンである実業家の死体が発見された。捜査にあたる“信濃のコロンボ”竹村は、事件と鬼女紅葉伝説との奇妙な符合に疑念を抱く。戦争の闇に葬られたはずの、哀しき巫女の怨念が招く、殺人の真相とは？

読売新聞 2022/11/27

2015:12./ 438p
978-4-06-293233-2

¥825〔税込〕



「神話」の歩き方～古事記・日本書紀の物語を体感できる風景・神社案内～

平藤 喜久子 著

集英社

日本神話の舞台である風景や関連の神社を、神話学者が撮りためてきた写真とともに紹介。伝承地が集中する出雲・日向・対馬を取り上げ、神話を感じる旅に案内する。

読売新聞 2022/11/27

2022:7./ 190p
978-4-08-781712-6

¥1,980〔税込〕



ステイト・オブ・テラー

ヒラリー・クリントン／ルイズ・ベニー 著

小学館

元アメリカ合衆国国務長官+ベストセラー作家による国際政治スリラー。意外な形で国務長官に抜擢されたエレン。四面楚歌の状況で奮闘するさなか、ロンドン、パリ、フランクフルトで連続爆破テロが発生し…。

読売新聞 2022/11/27

2022:11./ 606p
978-4-09-386658-3

¥2,970〔税込〕



豪華特急トワイライト殺人事件(新潮文庫)

西村京太郎 著

新潮社

読売新聞 2022/11/27

1995:2./ 313 p
978-4-10-128507-8

¥605〔税込〕





「気づき」のがん患者学～サバイバーに学ぶ治療と人生の選び方～(NHK 出版
新書 684)

古川 雅子 著

N H K 出版

がん患者にとってよい治療と人生の選択肢とは何か。がん患者 100 人超を取材し、最新治療を取り入れる際の考え方、医師からのアドバイス、仕事も人生も諦めない方法など、貴重な手がかりを余さず伝える。

読売新聞 2022/11/27

2022:9./ 270p
978-4-14-088684-7

¥968〔税込〕



語られざる占領下日本～公職追放から「保守本流」へ～(NHK ブックス 1275)

小宮 京 著

N H K 出版

関係者の手記やインタビュー、遺贈文書などから占領期の出来事を検証。広島カープ創設者の悲劇、フリーメイソンと宮内庁の攻防から、田中角栄伝説の創作過程まで発掘し、戦後史と日米関係の捉えなおしを迫る。

読売新聞 2022/11/27

2022:10./ 318p
978-4-14-091275-1

¥1,760〔税込〕



小さき王たち<第3部> 激流

堂場 瞬一 著

早川書房

いまだかつてないパンデミックの災禍に喘ぐ 2021 年の日本。マスコミ支配を進める政治家・田岡に抵抗し続ける東日本新聞記者・高樹は、最後の戦いを仕掛ける。50 年続く二家の因縁がついに決着!

読売新聞 2022/11/27

2022:10./ 419p
978-4-15-210131-0

¥2,200〔税込〕



私だけ年を取っているみたいだ。～ヤングケアラーの再生日記～

水谷 緑 著

文藝春秋

統合失調症の母、家庭に無関心な父、特別扱いされる弟、認知症の祖父。ゆいは幼稚園のころから、買い物・料理・そうじ・洗濯など、家族の世話を一手に担っていて…。ヤングケアラーの実録コミック。

読売新聞 2022/11/27

2022:10./ 172p
978-4-16-391614-9

¥1,210〔税込〕



教室の亡霊～長編推理小説～(光文社文庫 う 1-86)

内田 康夫 著

光文社

群馬県のある中学校の教室で、かつてその中学で教鞭を執っていた男の死体が発見された。被害者のポケットには、新人女性教師とのツーショット写真が…。現代の教育現場を取り巻く問題に、浅見光彦が挑む。

読売新聞 2022/11/27

2019:1./ 420p
978-4-334-77789-0

¥814〔税込〕





黒石(新宿鮫 12)

大沢在昌 著

光文社

リーダーを決めずに活動する地下ネットワーク「金石」の幹部、高川が警視庁公安に保護を求めてきた。正体不明の幹部“徐福”が、殺人者“黒石”を使い「金石」の支配を進めていると怯えていて…。『小説宝石』連載を加筆修正。

読売新聞 2022/11/27

2022:11./ 476p
978-4-334-91501-8

¥1,980〔税込〕



タンパク質で免疫力を上げる～今こそ知りたいインターフェロンの効用～(祥伝社黄金文庫 G み 10-7)

三石巖 著

祥伝社

分子栄養学を提唱した三石巖が、自分の健康のレベルアップを願う人たちのために、正しい知識を読みやすくまとめた名著。インターフェロンについてウイルス感染とガンの観点から、著者の考えを展開する。

読売新聞 2022/11/27

2022:9./ 207p
978-4-396-31827-7

¥770〔税込〕



闘う図書館～アメリカのライブラリアンシップ～(筑摩選書 0239)

豊田 恭子 著

筑摩書房

格差の拡大に直面する現代社会において、図書館はいかなる役割を担っているのか。トランプ政権との対立、移民の受け入れ、デジタル化の最前線など、理念と現実の狭間でもがくアメリカ図書館界の知られざる奮闘を活写する。

読売新聞 2022/11/27

2022:10./ 248p
978-4-480-01758-1

¥1,760〔税込〕



LIFE SHIFT～100 年時代の人生戦略～

リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット 著

東洋経済新報社

多くの人が 100 年以上生きる社会で、どうすれば、個人や家族、企業、社会全体が長寿化から得る恩恵を最も大きくできるのか。世界で活躍するビジネス思想家たちが、成長至上の次に来る、新しいビジョンを示す。

読売新聞 2022/11/27

2016:10./ 399p,15p
978-4-492-53387-1

¥1,980〔税込〕



調べ物に役立つ図書館のデータベース(ライブラリーぶっくす)

小曾川真貴 著

勉誠出版

図書館には調べ物に役立つ便利なデータベースがそろっている。図書館で使える便利なツールと、その使用方法を紹介。OPAC や、キーワードを使った検索方法もやさしく解説する。Web で使えるデータベースの QR コード付き。

読売新聞 2022/11/27

2022:8./ 10p,200p
978-4-585-30006-9

¥1,980〔税込〕





仕事ください(竹書房文庫 ま 8-2)

日下 三蔵 編

眉村 卓 著

竹書房

仕事仕事仕事ください。意のままになる奴隷を求めた男の前に現れた“奴”は仕事を求め続ける…。表題作をはじめ、不思議で哀切なる猫 SF「ピーヤ」、初期未収録作などを所収。現実と幻想の狭間に迷い込む短篇集。

読売新聞 2022/11/27

2022:9./ 412p

978-4-8019-3227-2

¥1,430〔税込〕



パンダのうんこはいい匂い

藤岡 みなみ 著

左右社

海外での体験談、青春時代の黒歴史、日本の珍スポット、四川省出身の義理の両親との暮らし…。すべての知らないこと=異文化に触れ、自分自身のかたちがどんどん変化していった日々を綴った、著者初のエッセイ集。

読売新聞 2022/11/27

2022:8./ 222p

978-4-86528-095-1

¥1,980〔税込〕



死者を巡る「想い」の歴史

山本 幸司 著

岩波書店

古代・中世を生きた人びとは、人の死をどのように受けとめ、死者をどのような想いで送ってきたのだろうか。歴史の流れの中で交錯する、死者と生者、それぞれの想念のあり様を、万葉集などの文学作品を手がかりに探る。

日本経済新聞 2022/11/05

2022:9./ 9p,297p,3p

978-4-00-061558-7

¥2,750〔税込〕



五重塔 改版(岩波文庫 緑 12-1)

幸田 露伴 著

岩波書店

技量はあるながらも小才の利かぬ性格ゆえに、「のっそり」とあだ名で呼ばれる大工十兵衛。その十兵衛が、義理も人情も捨てて、谷中感応寺の五重塔建立に一身を捧げる。エゴイズムや作為を超えた魔性のものに憑かれ、翻弄される職人の姿を、求心的な文体で浮き彫りにする文豪露伴(1867-1947)の傑作。

日本経済新聞 2022/11/05

1994:12./ 125p

978-4-00-310121-6

¥462〔税込〕



なぜ世界の半分が飢えるのか～食糧危機の構造～(朝日選書 257)

スーザン・ジョージ 著

朝日新聞社

アジア、アフリカ、中南米に集中している食糧危機や飢餓は、決して異常気象、人口過剰、農業技術の遅れなどに起因するのではない。元凶は先進大国、農業関連多国籍企業の食糧戦略と不公正な社会制度にあることを明快に実証する。

日本経済新聞 2022/11/05

1984:6./ 346p

978-4-02-259357-3

¥1,870〔税込〕





氷川清話(講談社学術文庫)

江藤 淳、松浦 玲 編

勝 海舟 著

講談社

完全校訂版 江藤淳・松浦玲編、未収録談を大量増補 海舟が自在に語る談話の数々幕藩体制瓦解の中、勝海舟は数々の難局に手腕を発揮、江戸城を無血開城に導いて次代を拓いた。晩年、海舟が赤坂氷川の自邸で、齒に衣着せず語った辛辣な人物評、痛烈な時局批判の数々は、彼の人間臭さや豪快さに溢れ、今なお興味が尽きない。本書は、従来の流布本を徹底的に検討し直し、疑問点を正し、未収録談を拾い上げ再編集した決定版。

日本経済新聞 2022/11/05

2000:12./ 400p
978-4-06-159463-0

¥1,375〔税込〕



* 9 7 8 4 0 6 1 5 9 4 6 3 0 *



三国志<1> 新装版(講談社文庫)

吉川 英治 著

講談社

2世紀末、中国後漢末期、政治は腐敗し、黄巾賊が各地にはびこって、民衆は苦しんでいた。青年劉備は、同志関羽、張飛と桃園で義盟を結び、世を救うことを誓う。ここに百年に亘る治乱興亡の壮大なドラマの幕が開く。吉川英治の名著『三国志』本編のみをまとめた新装版。「桃園の巻」「群星の巻」収録。

日本経済新聞 2022/11/05

2008:10./ 727p
978-4-06-276186-4

¥1,210〔税込〕



* 9 7 8 4 0 6 2 7 6 1 8 6 4 *



三国志<2> 新装版(講談社文庫)

吉川 英治 著

講談社

黄巾の乱から10年、天下の形勢は大きく変わり、曹操が抜きでた存在となっていた。劉備は関羽、張飛を擁するものの今は小沛の城を守るのみ。しかし、諸侯の間に日増しに高まる打倒曹操の声に、劉備も謀議の仲間に加わる。吉川英治の名著『三国志』本編のみをまとめた新装版。「草莽の巻」「臣道の巻」収録。

日本経済新聞 2022/11/05

2008:10./ 717p
978-4-06-276187-1

¥1,210〔税込〕



* 9 7 8 4 0 6 2 7 6 1 8 7 1 *



三国志<3> 新装版(講談社文庫)

吉川 英治 著

講談社

劉備は三顧の礼をもって孔明を迎え入れ、天下人として開眼するが、曹操の追撃の手は一向に緩まない。国力を拡充させていた呉の孫権に、檄を飛ばす曹操。孫権を説き伏せる孔明。かくて、赤壁での会戦へと時は流れていく。吉川英治の名著『三国志』本編のみをまとめた新装版。「孔明の巻」「赤壁の巻」収録。

日本経済新聞 2022/11/05

2008:10./ 711p
978-4-06-276188-8

¥1,210〔税込〕



* 9 7 8 4 0 6 2 7 6 1 8 8 8 *



三国志<4> 新装版(講談社文庫)

吉川 英治 著

講談社

赤壁の戦いで、曹操は大敗。劉備は蜀を得て、魏・呉・蜀三国の争いは、ますます激しくなり、呉の周瑜、蜀の孔明、両知将の謀略の戦いが演じられる。一方、頭角を現し始める司馬仲達の進言で、曹操も失地回復を窺う。吉川英治の名著『三国志』本編のみをまとめた新装版。「望蜀の巻」「関南の巻」収録。

日本経済新聞 2022/11/05

2008.10./ 739p
978-4-06-276189-5

¥1,100〔税込〕



三国志<5> 新装版(講談社文庫)

吉川 英治 著

講談社

関羽、孤立無援の中で鬼籍に。続いて曹操、劉備も命運尽きる。三国の均衡は破れ、蜀の興廃は、ただ孔明の双肩にかかっていた。孔明、仲達、連戦7年、ついに孔明も五丈原で星となる。吉川英治の名著『三国志』本編のみをまとめた新装版。「出師の巻」「五丈原の巻」収録。

日本経済新聞 2022/11/05

2008.10./ 783p
978-4-06-276190-1

¥1,100〔税込〕



ああ玉杯に花うけて～少年倶楽部名作選～(講談社文芸文庫 こ J34)

佐藤 紅緑 著

講談社

新聞小説、新劇、俳句、翻訳等で活躍していた50代の著者が、昭和2年『少年倶楽部』に連載した初の少年小説。旧制中学を舞台に、友情やいじめ、貧困、暴力、師弟愛等、現代に通じる人生の問題を真摯に描いた青春文学。

日本経済新聞 2022/11/05

2014.4./ 301p
978-4-06-290226-7

¥1,760〔税込〕



苦心の学友(講談社文芸文庫 さ R2)

佐々木 邦 著

講談社

伯爵家の三男の学友に選ばれた普通の家の少年が、上流家庭の生活に面くらい、とまどい、苦労を重ねる日々をユーモラスに描く。『少年倶楽部』全盛期に連載され、絶大な人気を博したユーモア文学の金字塔。

日本経済新聞 2022/11/05

2016.9./ 493p
978-4-06-290321-9

¥1,980〔税込〕



方舟

夕木 春央 著

講談社

地震によって山奥の地下建築に閉じ込められた柵一たち。水が流入しはじめ、地下建築の水没までおよそ1週間。地下建築から脱出するためには、9人のうち誰か1人を犠牲にしなければならない。そんななか、殺人事件が起こり…。

日本経済新聞 2022/11/05

2022.9./ 301p
978-4-06-529268-6

¥1,760〔税込〕





韓国併合～大韓帝国の成立から崩壊まで～(中公新書 2712)

森 万佑子 著

中央公論新社

朝鮮半島の地域研究を専門とする著者が、日韓双方の視点から韓国併合の軌跡と実態を描写。特に「大韓帝国が成立して崩壊していく過程」に注目し、今なお続く植民地の合法・不法論争についても記す。

日本経済新聞 2022/11/05

2022:8./ 4p,264p
978-4-12-102712-2

¥946〔税込〕



内発的発展論

鶴見 和子、川田 侃 著

東京大学出版会

日本経済新聞 2022/11/05

1989:3./ 268p
978-4-13-050100-2

¥3,190〔税込〕



この父ありて～娘たちの歲月～

梯 久美子 著

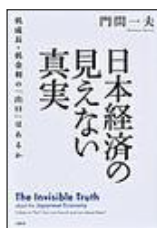
文藝春秋

石牟礼道子、茨木のり子、田辺聖子…。戦中・戦後の激動の時代、“書く”という困難な道を選んだ9人の女性たち。唯一無二の父娘関係が生んだ、しなやかで力強い彼女たちの生き様を描く。

日本経済新聞 2022/11/05

2022:10./ 277p
978-4-16-391609-5

¥1,980〔税込〕



日本経済の見えない真実～低成長・低金利の「出口」はあるか～

門間 一夫 著

日経B P社

デフレ脱却を目指したアベノミクス、日銀による異次元の金融緩和の前提としてあった日本経済をめぐる「通説」は果たして正しかったのか。元日本銀行理事が、この10年の金融財政政策を総括し、新たなフレームを提示する。

日本経済新聞 2022/11/05

2022:9./ 305p
978-4-296-00121-7

¥2,640〔税込〕



強権的指導者の時代～民主主義を脅かす世界の新潮流～

ギデオン・ラックマン 著

日経B P社

プーチン、習近平、トランプ…。世界各地で強権的指導者が台頭し、世界政治を根本的に変えている。強権的指導者という潮流はいつから定着したのか、その主な特徴は何か、なぜこの流れが起きたのかを解説する。

日本経済新聞 2022/11/05

2022:8./ 386p
978-4-296-11427-6

¥2,640〔税込〕





農家はもっと減っていい〜農業の「常識」はウソだらけ〜(光文社新書 1217)

久松 達央 著

光文社

「農家」の8割が売上500万円以下という残念な事実、農地転用という農家の「不都合な真実」…。第一線の農業者が、農業に関する様々なウソに丁寧に反論し、これからの日本の農業のあり方を考える。

日本経済新聞 2022/11/05

2022:8./ 375p
978-4-334-04624-8

¥1,144〔税込〕



スマート・イナフ・シティ〜テクノロジーは都市の未来を取り戻すために〜

ベン・グリーン 著

人文書院

スマート・シティの背後にある政治性とは。テクノロジーが都市の統治と生活に与える無数の影響に光を当て、多くの失敗例や危険性を明らかにしながら、技術を適切に利用した、公正で民主的な都市のあり方を提言する。

日本経済新聞 2022/11/05

2022:8./ 292p
978-4-409-24149-3

¥3,080〔税込〕



エコシステム・ディスラプション〜業界なき時代の競争戦略〜

ロン・アドナー 著

東洋経済新報社

業界の非連続的変化「ディスラプション」は、エコシステムによって起こされる。スポンティファイ、ウェイフェアなど、GAFAの激しい攻勢を鮮やかにかわした企業の事例なども紹介しながら、成功を収めるための戦略を探る。

日本経済新聞 2022/11/05

2022:8./ 351p,30p
978-4-492-53454-0

¥2,420〔税込〕



わたしは「ひとり新聞社」〜岩手県大槌町で生き、考え、伝える〜

菊池 由貴子 著

亜紀書房

東日本大震災後、岩手県大槌町の町民に町の情報を知らせたいという思いからスタートした『大槌新聞』。二度の心停止と離婚の挫折を抱えた内気な著者が、震災を契機にひとりで小さな新聞を創刊し書き続けた10年間の奮闘記。

日本経済新聞 2022/11/05

2022:9./ 259p
978-4-7505-1767-4

¥1,980〔税込〕



クレプトクラシー 資金洗浄の巨大な闇〜世界最大のマネーロンダリング天国アメリカ〜

ケイシー・ミシェル 著

草思社

独裁者、権力者、新興財閥…。国家と国民を食い物にしているクレプトクラシー(泥棒政治家)たちの「汚れた金」を洗浄していたのはアメリカだった! 世界中から押し寄せる違法な金を洗浄するシステムの詳細を明らかにする。

日本経済新聞 2022/11/05

2022:9./ 485p
978-4-7942-2598-6

¥3,080〔税込〕





日本語からの哲学～なぜ<です・ます>で論文を書いてはならないのか?～(犀の教室)

平尾昌宏 著
晶文社

<である>と<です・ます>、2つの文末辞の違いを掘り下げていった末にたどり着いたのは、全く異なった2つの世界像=哲学原理だった。国語学、日本語学の成果をふまえ、日本語で哲学することの可能性を追求する。

日本経済新聞 2022/11/05

2022:9./ 310p
978-4-7949-7327-6
¥1,980〔税込〕
* 9 7 8 4 7 9 4 9 7 3 2 7 6 *



完本巨人と少年～黒澤明の女性たち～(ワイズ出版映画文庫 18)

尾形 敏朗 著
ワイズ出版

日本映画の「巨人」黒澤明に秘められた「少年」の心とは? 「少女」と「女」をキーワードに従来のイメージを覆したクロサワ論。高峰秀子を「少女」の原点に置く「デコという少女」なども収録。大林宣彦の旧版書評も掲載。

日本経済新聞 2022/11/05、読売新聞 2022/11/13

2022:10./ 590p
978-4-89830-346-7
¥1,650〔税込〕
* 9 7 8 4 8 9 8 3 0 3 4 6 7 *



江戸にラクダがやって来た～日本人と異国・自国の形象～

川添 裕 著
岩波書店

江戸時代後期、2頭のラクダがオランダ船で長崎にやってきて、見世物として全国各地を巡業する。数多くの文献・資料を読み解きながら、日本人の異国・自国の形象認識を丹念に紐解く表題作のほか、長年の研究成果を集大成。

日本経済新聞 2022/11/12

2022:9./ 10p,363p
978-4-00-022312-6
¥3,190〔税込〕
* 9 7 8 4 0 0 0 2 2 3 1 2 6 *



「ヤングケアラー」とは誰か～家族を“気づかう”子どもたちの孤立～(朝日選書 1031)

村上靖彦 著
朝日新聞出版

長期脳死の兄の「身代わり」として、親の前で頑張って見せる子。ろう者の母親を手話通訳するうちに「私」が消えていく子…。介護や家事労働だけが「ケア」ではない。ケアする子どもたちが体験する孤立を「語り」から考える。

日本経済新聞 2022/11/12

2022:8./ 346p
978-4-02-263121-3
¥1,870〔税込〕
* 9 7 8 4 0 2 2 6 3 1 2 1 3 *



世界最高のチーム～グーグル流「最少の人数」で「最大の成果」を生み出す方法～

ピョートル・フェリクス・グジバチ 著
朝日新聞出版

チームのパフォーマンスを向上させる良質な会話、一瞬で差をつけるチーム時間の使い方、最少の人数で最大の成果を生み出す方法、劇的に生産性をあげる仕組みのつくり方…。グーグルで学んだ世界最高のチームづくりを紹介する。

日本経済新聞 2022/11/12

2018:8./ 247p
978-4-02-331728-4
¥1,540〔税込〕
* 9 7 8 4 0 2 3 3 1 7 2 8 4 *



はぐれんぼう

青山 七恵 著

講談社

クリーニング店で働く優子は、持ち主が長く引き取りに來ない衣服「はぐれんぼちゃん」たちを自宅に持ち帰る。すると翌朝、それらが体全体を覆っていて…。不可思議で切なく瑞々しい救済と癒しの物語。『群像』連載を単行本化。

日本経済新聞 2022/11/12

2022:9./ 344p
978-4-06-529097-2

¥2,090〔税込〕



名画の中で働く人々～「仕事」で学ぶ西洋史～

中野 京子 著

集英社

闘牛士、侍女、香具師、宮廷音楽家、異端審問官、女優、子ども…。西洋の名画に登場する様々な「働く人々」を取り上げ、西洋史を仕事から読み解く試み。集英社学芸編集部ウェブサイト連載を加筆、修正し書籍化。

日本経済新聞 2022/11/12

2022:9./ 223p
978-4-08-781726-3

¥2,090〔税込〕



日本インテリジェンス史～旧日本軍から公安、内調、NSC まで～(中公新書 2710)

小谷 賢 著

中央公論新社

国家の政策決定のために、情報分析や防諜活動を行うインテリジェンス。戦後日本のインテリジェンス・コミュニティの変遷を追いながら、CIA 事案やソ連スパイ事件など豊富な事例を交え、75 年にわたる秘史を描く。

日本経済新聞 2022/11/12

2022:8./ 5p,279p
978-4-12-102710-8

¥990〔税込〕



あなたの教室

レティシア・コロンバニ 著

早川書房

教師を辞めインドに來たフランス人・レナと、彼女が海で溺れかけているのを救った少女・ホーリー。レナは、「女だから」学校に通えないホーリーのために、この子たちが学べる教室をつくろうと決意し…。

日本経済新聞 2022/11/12

2022:9./ 235p
978-4-15-210164-8

¥1,760〔税込〕



AI と人類

ヘンリー・キッシンジャー／エリック・シュミット／ダニエル・ハッテンロッカー 著
日経 B P 社

AI はどのようなイノベーションを起こすのか。AI は人間には認識できない現実を認識するようになるのか。「人間である」とは最終的に何を示すのか。世界最高峰の知性が、AI のもたらす社会的変化と人類の未来について語る。

日本経済新聞 2022/11/12

2022:8./ 283p
978-4-296-11465-8

¥2,420〔税込〕





日本のピアニスト～その軌跡と現在地～(光文社新書 1225)

本間ひろむ 著

光文社

世界中で愛されるピアノ。日本にはいつ、どのように伝わったのか。日本で初めて製造されたのはいつか。日本のピアニストたちが歩んできた軌跡を辿りながら、「日本の新しいピアニスト像」までを射程に入れて考察する。

2022:10./ 234p
978-4-334-04632-3

¥924〔税込〕



日本経済新聞 2022/11/12



「日本心霊学会」研究～霊術団体から学術出版への道～

栗田 英彦 編

吉永 進一／渡 勇輝／石原 深予／一柳 廣孝／菊地 暁／神保町のオタ／平野 直子 著

人文書院

霊術団体はいかにして人文系出版社へと姿を変えたのか。発見された機関紙『日本心霊』全号を紐解き、日本近代の宗教、学知、出版を総合的に捉え直す。折口信夫、西田直二郎の新発見資料も収録。年表、人名索引付き。

2022:10./ 251p
978-4-409-03117-9

¥3,300〔税込〕



日本経済新聞 2022/11/12



弱いニーチェ～ニヒリズムからアニマシーへ～(筑摩選書 0236)

小倉 紀蔵 著

筑摩書房

ニーチェの言う「超人」は、弱い人間だった。世界哲学の視点からニーチェを読み直して見えてくる生命力あふれる人間像に、混迷の時代を生き抜く新しい力を見いだす。京都大学の講義を書籍化。

2022:9./ 297p
978-4-480-01756-7

¥1,870〔税込〕



日本経済新聞 2022/11/12



傷を愛せるか 増補新版(ちくま文庫 み 37-1)

宮地 尚子 著

筑摩書房

傷がそこにあることを認め、受け入れ、傷のまわりをそっとなぞる。心は震えつづける。それでも、人は生きていく。旅先で、臨床現場で、心の波打ち際にたたずむ。トラウマと向き合う精神科医のエッセイ集。

2022:9./ 248p
978-4-480-43816-4

¥792〔税込〕



日本経済新聞 2022/11/12



特務(スペシャル・デューティー)～日本のインテリジェンス・コミュニティの歴史～

リチャード・J・サミュエルズ 著

日本経済新聞出版社

「ファイブ・アイズ」加盟か、情報機関の再構築か。明治から敗戦、冷戦時代、現代まで、日本の100年におよぶインテリジェンス・コミュニティの歴史を考察。直近の改革が日本の安全保障にもたらし得る結果を明らかにする。

2020:12./ 499p
978-4-532-17686-0

¥3,300〔税込〕



日本経済新聞 2022/11/12



家事は大変って気づきましたか？

阿古 真理 著

亜紀書房

時代が変わっても、家事はラクになってない。明治から令和まで、家事と仕事の両立を目指してきた女性たちの歴史、それぞれの時代の暮らしと流行を豊富な資料で解き明かし、家事に対する人々の意識の変遷を読みとく。

日本経済新聞 2022/11/12

2022:9./ 351p
978-4-7505-1766-7

¥1,980〔税込〕



プーチン戦争の論理(インターナショナル新書 109)

下斗米 伸夫 著

集英社インターナショナル

2022年2月にはじまった「特別軍事作戦」という名の「プーチンの戦争」。なぜロシアは、ウクライナへ侵攻したのか？プーチンと何度も対面した経験を持つ著者が、ウクライナ侵攻の真相を解説する。

日本経済新聞 2022/11/12

2022:10./ 237p
978-4-7976-8109-3

¥946〔税込〕



心理的安全性のつくりかた～「心理的柔軟性」が困難を乗り越えるチームに変える～

石井 遼介 著

日本能率協会マネジメントセンター

「健全な衝突」がチームの力を引き上げる！いま組織・チームにおいて注目されている「心理的安全性」とは何かから、職場・チームで高めるアプローチ方法までを解説する。心理的安全性を計測できる特典付き。

日本経済新聞 2022/11/12

2020:9./ 330p
978-4-8207-2824-5

¥1,980〔税込〕



恐れのない組織～「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす～

エイミー・C・エドモンドソン／村瀬 俊朗 著

英治出版

本質的に異なるメンバーが集まるグループにとって欠かせない「心理的安全性」。このコンセプトの生みの親であるハーバード大教授が、対人関係の不安がいかに組織を蝕むか、そして、それを乗り越えた組織のあり方を描く。

日本経済新聞 2022/11/12

2021:2./ 317p
978-4-86276-288-7

¥2,420〔税込〕



赤の自伝

アン・カーソン 著

書肆侃侃房

古代ギリシアの詩人ステシコロスが描いた怪物グリュオンと英雄ヘラクレスの神話が、ロマンスとなって現代に甦る。詩と小説のハイブリッド形式(ヴァース・ノベル)で再創造された、アン・カーソンの代表作を邦訳。

日本経済新聞 2022/11/12

2022:9./ 253p
978-4-86385-539-7

¥2,420〔税込〕





リデザイン・ワーク 新しい働き方

リンダ・グラットン 著

東洋経済新報社

働く人を大切にする職場にこそ、人は集まる。ロンドン・ビジネス・スクール経営学教授が、「仕事のあり方」「働く意味」「人生の豊かさ」の“リデザイン(再設計)”を描く。

日本経済新聞 2022/11/12、読売新聞 2022/11/27

2022:10./ 369p
978-4-492-53460-1

¥2,090〔税込〕



力と交換様式

柄谷 行人 著

岩波書店

戦争と恐慌の危機を絶えず生み出す資本主義の構造と力、呪力、権力、資本の力が結合した資本=ネーション=国家を揚棄する「力」。交換様式から生まれる「力」を軸に人類史の歩みを再考し、柄谷行人の全思想体系の核心を示す。

日本経済新聞 2022/11/19

2022:10./ 11p,416p
978-4-00-061559-4

¥3,850〔税込〕



君のクイズ

小川 哲 著

朝日新聞出版

クイズ番組の決勝に出場した三島玲央は、対戦相手が問題が読まれぬうちにボタンを押し正解し、優勝を果たすという不可解な事態を訝しむ。決勝を1問ずつ振り返る三島はやがて…。『小説トリッパー』掲載を加筆修正。

日本経済新聞 2022/11/19

2022:10./ 190p
978-4-02-251837-8

¥1,540〔税込〕



外交官の決断～一万五千日の現場秘史～

都倉 栄二 著

講談社

外交官 36 年の著者が明す日本と独ソの真実日本人はなぜ、ロシアとドイツに不協和音を持つのか。永遠のテーマを解くカギがここにある。外交特権のなかに秘められた、戦中戦後のもう一つの実像が明らかに！

日本経済新聞 2022/11/19

1995:1./ 374p
978-4-06-207456-8

¥1,922〔税込〕



陸軍士官学校の人間学～戦争で磨かれたリーダーシップ・人材教育・マーケティング～(講談社+α 新書)

中条 高德 著

講談社

瀕死のアサヒビールを立て直し、シェア No.1 にまで成長させる過程には、陸軍士官学校の戦略・戦術があった。アサヒビール名誉顧問の著者が、ビジネスに勝つための兵法を徹底解説。

日本経済新聞 2022/11/19

2010:5./ 205p
978-4-06-272653-5

¥921〔税込〕





沈むフランス

松家 仁之 著

新潮社

北海道の小さな村を郵便配達車でめぐる女。川のほとりの木造家屋に「フランス」とともに暮らす男。ふたりの関係がある危機を迎えたとき、村を雪が覆い尽くす…。深く鮮やかな恋愛小説。『新潮』掲載を単行本化。

日本経済新聞 2022/11/19

2013:9/ 184p
978-4-10-332812-4

¥1,540〔税込〕



陰の戦争～アメリカ・ロシア・中国のサイバー戦略～

エリザベス・ヴァン・ウィー・デイヴィス 著

中央公論新社

戦時と平時の境界が消滅、国家の中核機能やインフラを破壊。サイバー戦争は既に始まっている！制度・組織・実施機関、戦略、諜報、攻撃の実態から、アメリカ・ロシア・中国の思惑と戦略思想を比較分析する。

日本経済新聞 2022/11/19

2022:9/ 273p
978-4-12-005569-0

¥2,970〔税込〕



縛られる日本人～人口減少をもたらす「規範」を打ち破れるか～(中公新書 2715)

メアリー・C・ブリントン 著

中央公論新社

人口が急減する日本。なぜ出生率も幸福度も低いのか。世界的な日本研究者が、日本、アメリカ、スウェーデンの子育て世代へのインタビュー調査と国際比較データから日本の若い男女の姿を浮かび上がらせ、政策提言をおこなう。

日本経済新聞 2022/11/19

2022:9/ 260p
978-4-12-102715-3

¥990〔税込〕



日本国憲法の二〇〇日(文春文庫)

半藤 一利 著

文芸春秋

敗戦から、不戦条項を含む「憲法改正草案要綱」が閣議決定されるまでの日々を、当時 15 歳であった歴史探偵が少年と二つの目で描く。

日本経済新聞 2022/11/19

2008:4/ 380p
978-4-16-748317-3

¥704〔税込〕



レジリエントな社会～危機から立ち直る力～

マーカス・K・ブルネルマイヤー 著

日経BP社

効率重視の「ジャスト・イン・タイム」から、万に備える「ジャスト・イン・ケース」へ。気鋭のマクロ経済学者が、パンデミック、戦争、大地震、気候変動といった危機に対処するためのマインドセットを解説する。

日本経済新聞 2022/11/19

2022:8/ 445p
978-4-296-11374-3

¥2,750〔税込〕





レストラン「ドイツ亭」

アネッテ・ヘス 著

河出書房新社

フランクフルトでレストラン「ドイツ亭」を営む両親や家族とともに暮らす 24 歳のエーファは、ある偶然から、アウシュヴィッツ裁判でホロコーストの被害者の証言を通訳するよう依頼される。それは彼女の運命を大きく変え...

日本経済新聞 2022/11/19

2021:1./ 378p
978-4-309-20816-9

¥3,190〔税込〕



梅干と日本刀～日本人の知恵と独創の歴史～(祥伝社新書 369)

樋口 清之 著

祥伝社

ゾリンゲンのナイフに応用された日本刀の技術、超合理的だった日の丸弁当、梅毒を治した紫色の布...。日本文化の美点を客観的にとらえ、当の日本人が知らなかった、日本人の知恵と独創、発明と工夫を紹介する。

日本経済新聞 2022/11/19

2014:6./ 254p
978-4-396-11369-8

¥1,012〔税込〕



家の本(エクス・リブリス)

アンドレア・バイヤーニ 著

白水社

記憶にある最初の家、放課後に通った同級生の家、重苦しかった親戚の家、学生仲間の散らかった家、新しい家族を築いた希望に満ちた家などが、そこにいた人々とともに思い浮かんでくる。家々が語る、「私」の人生の光と影。

日本経済新聞 2022/11/19

2022:10./ 331p
978-4-560-09077-0

¥3,960〔税込〕



権力は嘘をつく～ベトナム戦争の真実を暴いた男～(亜紀書房翻訳ノンフィクション・シリーズ 4-5)

スティーヴ・シャンキン 著

亜紀書房

ベトナム戦争が権力者のメンツや選挙対策によってエスカレーションしていくことに疑問を持ったエルズバークは、政府の機密文書を暴露する。ベトナム戦争終結までを推理小説のように一気に読ませる歴史ノンフィクション。

日本経済新聞 2022/11/19

2022:9./ 374p,7p
978-4-7505-1759-9

¥2,475〔税込〕



レッド・ルーレット～私が陥った中国バブルの罠～

デズモンド・シャム 著

草思社

上海の貧しい教師の家に生まれ、改革開放経済の上げ潮に乗って大成功するも、習近平体制下の腐敗一掃で破滅、2017 年に拉致された元妻は今も消息不明...。現代中国の新富裕層の成立と運命を生々しく回想する。

日本経済新聞 2022/11/19

2022:9./ 317p,10p
978-4-7942-2599-3

¥2,860〔税込〕





ドナーで生まれた子どもたち～「精子・卵子・受精卵」売買の汚れた真実～

ナショナル ジオグラフィック 編

サラ・ディングル 著

日経ナショナルジオグラフィック社

27歳で、自身がドナーで生まれた子であると知った著者が、「第三者の生殖細胞から誕生した人間」と「人間を繁殖させること」について綴った科学ノンフィクション。不妊治療と生殖ビジネスの深い闇を暴く。

日本経済新聞 2022/11/19

2022:9./ 485p
978-4-86313-537-6

¥2,420〔税込〕



音楽散歩、ミュージカル界限

藤田 敏雄 著

アーツアンドクラフツ

テレビ長寿番組「題名のない音楽会」を立ち上げ、その構成・脚本を手がけた著者が、番組の裏話と、日米欧ミュージカルの歴史や、演歌・シャンソンの尽きない魅力を紹介する。

日本経済新聞 2022/11/19

2007:10./ 278p
978-4-901592-44-4

¥2,090〔税込〕



青木きららのちょっとした冒険

藤野 可織 著

講談社

人気モデル兼俳優の偽者、痴漢された女子高生、特別な日を撮影するカメラマン、推しの若き死を望む会社員...。8人のきららの8つの人生が照射する、残酷でかすかにあたたかい世界の物語。『群像』掲載等を単行本化。

日本経済新聞 2022/11/26

2022:11./ 224p
978-4-06-529654-7

¥1,760〔税込〕



因果推論の科学～「なぜ？」の問いにどう答えるか～

ジューディア・パール／ダナ・マッケンジー 著

文藝春秋

この商品が売れた理由は。感染症が広まった原因は。人間のように考えられる人工知能=強いAIはつくれるか-。「人工知能の巨人」が、従来の統計学やデータ分析からだけでは答えられない「なぜ？」の問題に挑む入門書。

日本経済新聞 2022/11/26

2022:9./ 605p
978-4-16-391596-8

¥3,740〔税込〕



世界食料危機(日経プレミアシリーズ 480)

阮 蔚 著

日経BP社

ロシアのウクライナ侵攻により、世界がふたたび食糧危機、エネルギー危機に直面している。両国の小麦等が穀物貿易の鍵を握るようになった理由、さらに穀物の生産・貿易・消費の地殻変動など危機の背景をわかりやすく解説する。

日本経済新聞 2022/11/26

2022:9./ 223p
978-4-296-11505-1

¥990〔税込〕





教養としての決済

ゴットフリート・レイブラント／ナターシャ・デ・テラン 著

東洋経済新報社

人は決済に囲まれて生きている。決済の過程では何が起きているのか？ どのようにお金が動き、誰がコントロールしているのか？ SWIFT の元 CEO が、「支払い」の歴史・仕組みなど世界を動かすお金の裏側を解説する。

日本経済新聞 2022/11/26

2022:9./ 417p,14p
978-4-492-68149-7

¥2,200〔税込〕



自殺の思想史～抗って生きるために～

ジェニファー・マイケル・ヘクト 著

みすず書房

自殺をしてはいけない...この言葉は、どう根拠づけられるのか。古代ローマの歴史的資料や古代ギリシャの哲学者たちの思索をはじめ、戯曲や芸術、宗教思想、哲学といった広い視野で自殺を考察し、止めるための根拠を見いだす。

日本経済新聞 2022/11/26

2022:10./
7p,248p,25p
978-4-622-09069-4

¥4,950〔税込〕



おいしい京都学～料理屋文化の歴史地理～

加藤 政洋／河角 直美 著

ミネルヴァ書房

いもぼう、海川魚料理、うなぎ料理、とり料理、洋食…。これらありふれた料理が、京都にあっては思いもよらぬ歴史を隠している。近代京都の都市史をひもとき、江戸時代から現代までを往還しつつ、料理屋文化の系譜をたどる。

日本経済新聞 2022/11/26

2022:10./
13p,230p,2p
978-4-623-09460-8

¥2,750〔税込〕



コールド・ウォー～ドル覇権を崩壊させるプーチンの資源戦争～(草思社文庫 カ 2-1)

マリン・カツサ 著

草思社

プーチンが仕掛ける新冷戦(コールド・ウォー)がアメリカの覇権を終焉させる!? 資源開発現場で得た最新情報をもとに、世界激震の背後にあるプーチンのしたたかな資源戦略を洞察、ドル崩壊の危機を予測した戦慄の書。

日本経済新聞 2022/11/26

2022:8./ 371p
978-4-7942-2596-2

¥1,320〔税込〕



正岡子規ベースボール文集(岩波文庫 31-013-13)

復本 一郎 著

岩波書店

久方のアメリカ人のはじめにしベースボールは見れど飽かぬかも 無類のベースボール好きだった正岡子規が、アメリカより伝来して間もないその球技の愉しさを、折りにふれ綴った句、歌、随筆を集録する。

毎日新聞 2022/11/05

2022:9./ 125p
978-4-00-360043-6

¥462〔税込〕





ウマと話すための7つのひみつ

河田 棧 著

偕成社

ウマと話すことができれば? 「動物と話してみたい」という子どもたちの願いにこたえる「馬語」の入門書。与那国島でウマを相棒に暮らす著者が発見した、ウマと話すための7つの秘密を伝えます。

毎日新聞 2022/11/05

2022:10./ 46p
978-4-03-435170-3

¥1,430〔税込〕



由熙 ナビ・タリョン(講談社文芸文庫)

李 良枝 著

講談社

在日朝鮮人として生れた著者の、37歳で夭逝した魂の記録。差別と偏見の苦しい青春時代を越えて、生国・日本と母国・韓国との狭間に、言葉を通してのアイデンティティを探し求めて、ひたすらに生きた短かい一生の鮮烈な作品群。芥川賞受賞の「由熙」、そして全作品を象徴するかのような処女作「ナビ・タリョン」(嘆きの蝶)、「かずきめ」「あにごぜ」を収録、人生の真実を表現。

毎日新聞 2022/11/05

1997:9./ 394p
978-4-06-197584-2

¥1,870〔税込〕



心はこうして創られる〜「即興する脳」の心理学〜(講談社選書メチエ 767)

ニック・チェイター 著

講談社

無意識の思考、深層心理、内的世界…。そんなものは存在しない! 最新の神経科学や認知心理学研究による常識を揺るがすような実験結果と鮮やかな分析で、“脳と心”の秘密を解き明かす。

毎日新聞 2022/11/05

2022:7./ 333p
978-4-06-524106-6

¥2,145〔税込〕



栞と嘘の季節

米澤 穂信 著

集英社

高校で図書委員をつとめる次郎と詩門は、ある日、図書室の返却本の中に、押し花の栞を見つける。それは猛毒のトリカブトで、校舎裏で栽培されているのも発見され…。『小説すばる』掲載を加筆修正。「本と鍵の季節」の続編。

毎日新聞 2022/11/05

2022:11./ 365p
978-4-08-771813-3

¥1,815〔税込〕



物語のカギ〜「読む」が10倍楽しくなる38のヒント〜

渡辺 祐真/スケザネ 著

笠間書院

読書という旅を豊かにするガイドブック。物語の基本的な仕組みから、もっと深く読むための視点、自分の人生経験を投影してみる個人的な方法、能動的な読みの工夫まで、物語をもっと味わえるようになる「カギ」を紹介する。

毎日新聞 2022/11/05

2022:8./ 327p
978-4-305-70965-3

¥1,980〔税込〕





雷神と心が読めるヘンなタネ〜こどものためのゲーム理論〜

鎌田 雄一郎 著

河出書房新社

ゲーム理論の考え方を使えば、「相手の立場に立つ」ことができるようになる。小学6年生の啓一を主人公にした物語と、啓一の前に現れた“雷神”の解説で、楽しくゲーム理論について学べる本。

毎日新聞 2022/11/05

2022:6./ 221p
978-4-309-29195-6

¥1,793〔税込〕



情動はこうしてつくられる〜脳の隠れた働きと構成主義的情動理論〜

リサ・フェルドマン・バレット、高橋 洋 著

紀伊國屋書店出版部

幸福、悲しみ、怖れ、怒り…。情動は「理性のコントロールが及ばず自動的に引き起こされる反応」ではない。情動についての従来の見方を覆す、著者独自の「構成主義的情動理論」を説明し、人間の本性の新たな見方を提起する。

毎日新聞 2022/11/05

2019:11./ 617p
978-4-314-01169-3

¥3,520〔税込〕



英語のアポリア〜ネイティブが直面した言葉の難問〜

トム・ガリー 著

研究社

ネイティブにも不可解な英語の世界。辞典編纂者・英語教師としての長年の言語体験をもとに、日本人の英語の奇妙さや、教育の対象となってしまった言葉が孕む“解決できない難問=アポリア”の数々をユーモラスに綴る。

毎日新聞 2022/11/05

2022:9./ 5p,136p
978-4-327-49026-3

¥1,320〔税込〕



ビジネスエリートになるための投資家の思考法

奥野 一成 著

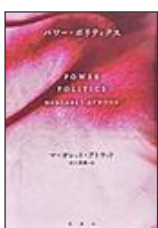
ダイヤモンド社

トヨタ、フェラーリ、テスラ。あなたならどこに投資する？ 投資もビジネスも成功に導く最強のメソッド「インベスターシンキング(投資家の思考法)」を伝授。「ビジネスエリートになるための教養としての投資」に続く実践編。

毎日新聞 2022/11/05

2022:9./ 269p
978-4-478-11604-3

¥1,650〔税込〕



パワー・ポリティクス

マーガレット・アトウッド 著

彩流社

一人称「わたし」とパートナーの「あなた」。男女の私的な物語は、個人から国家、さらに地球規模の闘争へ…。支配/被支配の関係に置かれた男女を描く 45 篇の詩を収録。カナダの詩人・作家マーガレット・アトウッドの詩集。

毎日新聞 2022/11/05

2022:8./ 131p
978-4-7791-2846-2

¥2,200〔税込〕





人は話し方が9割～1分で人を動かし、100%好かれる話し方のコツ～

永松 茂久 著

すばる舎

話し方をちょっと変えるだけで、仕事もプライベートも大きく好転する! 「あなた」を多用して自分のファンを作る、肩書き・立場によって話し方を変えないなど、楽しく会話できる「とっておきの秘訣」を紹介する。

2019.9./ 238p
978-4-7991-0842-0

¥1,540〔税込〕



毎日新聞 2022/11/05



ひとり遊びぞ我はまされる

川本 三郎 著

平凡社

映画を見ること、本を読むこと、音楽を聴くこと、町を歩くこと、ローカル線の旅に出ること…。ひとり迎えた老年の日々を綴った日記。『東京人』連載を書籍化。

2022.9./ 293p
978-4-582-83908-1

¥2,420〔税込〕



毎日新聞 2022/11/05、朝日新聞 2022/11/26、東京・中日新聞 2022/11/27



編めば編むほどわたしはわたしになっていった

三國 万里子 著

新潮社

ずっと息苦しさを感じていた少女は、いかにして編みものの世界に自分の居場所を見つけたのか? 読む人それぞれの「あの頃」がよみがえる、極上のエッセイ集。書き下ろし全 29 編を収録。

2022.9./ 230p
978-4-10-354781-5

¥1,650〔税込〕



毎日新聞 2022/11/05、読売新聞 2022/11/13



俳句いまむかし<みたび>

坪内 稔典 著

毎日新聞出版

同じ季語の句の「いまの俳句」と「むかしの俳句」を並べて読みくらべる俳句読本。古典から現代までの名句・秀句・ゆかいな句 400 句を取り上げ、それぞれの味わいと楽しみ方を伝える。『毎日新聞』連載を書籍化。

2022.9./ 223p
978-4-620-32751-8

¥1,980〔税込〕



毎日新聞 2022/11/07



新しき過去～歌集～(塔 21 世紀叢書 第 409 篇)

栗木 京子 著

短歌研究社

城の太鼓打ちて時刻を知らせたる江戸の世ありき今日の秋晴れ 麦星よ狩の民には近く見え海の民には遠く見えしか 現実の基底から、かがやきを発見しようとする第 11 歌集。『短歌研究』など掲載を書籍化。

2022.9./ 179p
978-4-86272-725-1

¥2,200〔税込〕



毎日新聞 2022/11/07



シェフチェンコ詩集(岩波文庫 37-772-1)

岩波書店

理不尽な民族的抑圧への怒りと嘆きをうたい、ウクライナの国民的詩人と呼ばれるタラス・シェフチェンコ。帝国ロシアを痛烈に批判し、流刑の原因となった詩集から、「ナイミチカ」「遺言」など 10 篇を精選して収録する。

毎日新聞 2022/11/12

2022:10./ 246p
978-4-00-377012-2

¥858〔税込〕



江戸漢詩の情景～風雅と日常～(岩波新書 新赤版 1940)

揖斐 高 著

岩波書店

江戸の人びとにとって、漢詩文は、日々の暮らしのさまざまな想い、人生の悲喜こもごもを記すための身近な表現手段だった。具体的な作品を読み解きながら人びとの感情・思考を掘り上げ、江戸文学の奥深い魅力へと迫る詩話集。

毎日新聞 2022/11/12

2022:8./ 2p,253p
978-4-00-431940-5

¥990〔税込〕



老害の人

内館 牧子 著

講談社

双六やカルタの製作販売会社の前社長・戸山福太郎は、娘婿に社長を譲ってからも現役に固執して出勤し、同じ手柄話をくり返す。彼の仲間も老害の人ばかり。福太郎の娘・明代はある日、たまりかねて腹の中をぶちまけ…。

毎日新聞 2022/11/12

2022:10./ 355p
978-4-06-529924-1

¥1,760〔税込〕



工藤會事件

村山 治 著

新潮社

一般人への攻撃を繰り返す組織犯罪集団を、当局はいかに攻略したのか。警察と検察がタッグを組み、「血の掟」で支配された指定暴力団・工藤會に対して展開したオペレーションの全貌と紆余曲折の舞台裏を、資料と証言で描く。

毎日新聞 2022/11/12

2022:6./ 286p
978-4-10-354681-8

¥1,815〔税込〕



少年期の心～精神療法を通してみた影～(中公新書)

山中 康裕 著

中央公論新社

一歩家を出ると一言も口をきかない太郎君、不登校を続ける庭子さん、自分の母親が母親と分からなくなった霧子さん、執拗な心気症から自殺まではかった誠君……。ごく当り前の小学生・中学生を辛い危うい淵に追いやった原因は何か。「箱庭療法」はじめ、イメージの世界で彼らととことんつきあうことを通じその心の治療に取り組んできた著者が、一つ一つのケースを如実に描きだし、親が、教師が忘れてはならないことを愛情をこめて説く。

毎日新聞 2022/11/12

1999:9./ 216p
978-4-12-100515-1

¥748〔税込〕





「修養」の日本近代～自分磨きの150年をたどる～(NHK ブックス 1274)

大澤 絢子 著

N H K 出版

何が「働くノン・エリート」を駆り立てたのか? 「自分磨き」の志向である「修養」。宗教との関わりという観点から、明治以降の際立った現象を取り上げ、立身出世や努力などをキーワードに、近現代日本の修養の系譜をたどる。

毎日新聞 2022/11/12

2022:8./ 286p
978-4-14-091274-4

¥1,760〔税込〕



出セイカツ記～衣食住という不安からの逃避行～

ワクサカ ソウヘイ 著

河出書房新社

日常をささやかに変える試みを通じて「社会の当たり前」を考察し、「衣食住」にまつわる根源的な矛盾や不安についてユーモラスに指摘しながら、解決の糸口を探る冒険エッセイ。ウェブ『DOZINE』連載を加筆し単行本化。

毎日新聞 2022/11/12

2022:10./ 265p
978-4-309-03074-6

¥1,705〔税込〕



人体の全貌を知れ～私たちの生き方を左右する新しい人体科学～

ダニエル・M・デイヴィス 著

亜紀書房

細胞、胚、臓器・器官系、脳、マイクロバイオーム、ゲノム…。ヒト生物学がどのように進展し、今、その最前線で何が起きていて、私たちの生活や人生にどう影響するのかをわかりやすく伝える。

毎日新聞 2022/11/12

2022:9./ 274p,36p,9p
978-4-7505-1765-0

¥2,640〔税込〕



ロシアのなかのソ連～さびしい大国、人と暮らしと戦争と～

馬場朝子 著

現代書館

生活に、信仰に、戦争に見えてくる「ソ連ノスタルジー」。日本で指折りのソ連・ロシアウオッチャー馬場朝子が、歴史を振り返ることで、いまを見るだけではわからないロシアの姿に迫る。テキストデータ請求券付き。

毎日新聞 2022/11/12

2022:9./ 191p
978-4-7684-5925-6

¥1,980〔税込〕



蒼海の碑銘<続> 海に眠る戦争の記憶

戸村裕之 著

イカロス出版

F6F ヘルキャット、駆逐艦「長月」「若竹」、特設運送船「乾祥丸」、零式水上偵察機、貨物船「桃川丸」…。海底に残る戦争の爪痕を写し撮った写真集。艦船・航空機の眠るポイントなども紹介する。

毎日新聞 2022/11/12

2022:8./ 151p
978-4-8022-1193-2

¥3,150〔税込〕





デクリネゾン

金原 ひとみ 著

ホーム社

2度の離婚を経て、中学生の娘と2人で暮らすシングルマザーの小説家。最近付き合い始めた大学生と一緒に暮らしたいと娘に告げるが…。恋愛する母たちの孤独と不安と欲望を描いた長編小説。『HB』連載を単行本化。

毎日新聞 2022/11/12

2022:8./ 349p
978-4-8342-5361-0

¥1,980〔税込〕



連赤に問う〜1972-2022〜

上毛新聞社 著

上毛新聞社

新左翼テロ組織、連合赤軍が山岳アジト事件やあさま山荘事件を起こして半世紀。昭和史を代表する犯罪は令和に何を伝えるのか。『上毛新聞』連載や安彦良和と青砥幹夫の特別対談、インタビューによる外伝などをまとめる。

毎日新聞 2022/11/12

2022:9./ 192p
978-4-86352-317-3

¥1,650〔税込〕



結交姉妹

村上 政彦 著

鳥影社

祖母から圭一に託された布製の冊子。それには鳥の足跡にも似た瀟洒な美しい文字が縫いつけられていた。その文字は、中国の特殊な古代文字で…。女性たちだけの秘密の世界、女書文字をめぐる物語。『季刊文科』連載を書籍化。

毎日新聞 2022/11/12、読売新聞 2022/11/27

2022:8./ 277p
978-4-86265-964-4

¥1,760〔税込〕



歴史はなぜ必要なのか〜「脱歴史時代」へのメッセージ〜

南塚 信吾、小谷 汪之、木畑 洋一 編

南塚 信吾／小谷 汪之／木畑 洋一 著

岩波書店

ラグビーの日本チームに外国出身選手が多いのはなぜ？長野の高冷地野菜の歴史は意外に新しい？世界が歴史の蓄積の上に成り立っていることを、9人の歴史家が身近な事柄から解き明かす。

毎日新聞 2022/11/19

2022:9./ 14p,222p
978-4-00-025676-6

¥2,530〔税込〕



ガリバー旅行記

ジョナサン・スウィフト 著

朝日新聞出版

次々に起きる出来事、たっぶりの諷刺、理屈ぬきの面白さ！世界中の子どもと大人が読みつづける18世紀の名作「ガリバー旅行記」。柴田元幸による『朝日新聞』金曜日夕刊の翻訳連載を単行本化。注釈、解説付き。

毎日新聞 2022/11/19

2022:10./ 491p
978-4-02-251865-1

¥2,200〔税込〕





大江健三郎の「義」

尾崎 真理子 著

講談社

「ギー兄さん」は柳田国男？ 平田篤胤の「神」が「壊す人」？ “西洋文学の申し子”大江健三郎の深淵に広がる日本文学の沃野を読み解き、西洋の知と真摯に格闘した4人の日本人をスリリングに追う。

毎日新聞 2022/11/19

2022:10./ 317p
978-4-06-528444-5

¥2,750〔税込〕



ル・コルビュジエ(講談社学術文庫 2734)

八束 はじめ 著

講談社

スイスの若き時計工芸家は、なぜこれほどの世界的名声を勝ち得たのか。師との出会いと決別、アカデミーとの論争…。建築界の巨匠ル・コルビュジエを“人文主義者”という視点で捉え直し、その全体像をクリアに描き出す。

毎日新聞 2022/11/19

2022:9./ 215p
978-4-06-529332-4

¥1,012〔税込〕



マクベス 改版(新潮文庫)

シェイクスピア 著

新潮社

かねてから、心の底では王位を望んでいたスコットランドの武将マクベスは、荒野で出会った三人の魔女の奇怪な予言と激しく意志的な夫人の教唆により野心を実行に移していく。王ダンカンを自分の城で暗殺し王位を奪ったマクベスは、その王位を失うことへの不安から次々と血に染まった手で罪を重ねていく……。シェイクスピア四大悲劇中でも最も密度の高い凝集力をもつ作品である。

毎日新聞 2022/11/19

2010:8./ 183p
978-4-10-202007-4

¥440〔税込〕



異邦人 改版(新潮文庫 カ-2-1)

カミュ 著

新潮社

母の死の翌日海水浴に行き、女と関係を結び、映画を見て笑いころげ、人を殺害し、動機について「太陽のせい」と答える…。通常の論理的な一貫性が失われている男を主人公に、不条理の認識を極度に追求したカミュの代表作。

毎日新聞 2022/11/19

2014:6./ 179p
978-4-10-211401-8

¥605〔税込〕



ひとりで生きると決めたんだ

ふかわ りょう 著

新潮社

それは覚悟なのか、諦めなのか。誰もが素通りする場所で足を止め、「どうでもいいこと」の向こう側で自分だけの「いいね」を見つける。48歳のふかわりょうが不器用な日常を綴る。

毎日新聞 2022/11/19

2022:11./ 218p
978-4-10-353792-2

¥1,540〔税込〕





昭和人の棲家～報道局長回想録～

平本 和生 著

新潮社

元 TBS 報道局長が回想する、テレビ報道最前線の記録！ ファントム墜落、田中角栄、プラザ合意、チャレンジャー爆発、雲仙大火砕流、9・11、イラク戦争……20世紀の荒波を、TV 報道記者として泳ぎ切った男が、昭和への惜別とともに後世に捧げる、熱き激動の回想録！ 著者自ら主宰する勉強会「築地朝塾 Plus」HP の大好評連載、圧倒的要望に応えてついに単行本化！

毎日新聞 2022/11/19

2022:10./ 380p
978-4-10-910231-5

¥1,980〔税込〕



国際関係論～同時代史への羅針盤～(中公新書)

中嶋 嶺雄 著

中央公論新社

戦争と革命の世紀、20 世紀は轟音を響かせて転換しつつある。国家そのもののあり方とともに、国家間の関係もまた問われているのである。国際関係論という学問は、政治・経済・文化などが交錯する場である国際関係に生ずる問題を解明し、現代史の深部の潮流を捉えて未来を展望することを目指す総合的社会科学である。歴史の転換期に立つ現在、この学問は世界を見据える羅針盤となるであろう。巻末に詳細な基礎文献案内を付す。

毎日新聞 2022/11/19

1999:5./ 238p
978-4-12-101106-0

¥924〔税込〕



統一教会何が問題なのか(文春新書 1394)

文藝春秋編 著

文藝春秋

巨額の献金、政治家との癒着、信者家族の悲劇、教義に込められた特異な世界観……。統一教会に対して人々が抱く疑問に、第一線のジャーナリストや論者が答える。『文藝春秋』特集記事を中心に新書化。

毎日新聞 2022/11/19

2022:11./ 227p
978-4-16-661394-6

¥935〔税込〕



統一教会とは何か 改訂新版

有田 芳生 著

大月書店

インチキ難民募金・靈感商法などで集めた膨大な資金を背景に自民党にすり寄る統一教会とは？ 組織の実態や保守政治勢力との結びつきに鋭く斬りこんだ労作に、新たな書き下ろしを加えた改訂新版。

毎日新聞 2022/11/19

2022:9./ 230p
978-4-272-33110-9

¥1,650〔税込〕





親衛隊士の日(河出文庫 ソ 2-2)

ウラジーミル・ソローキン 著

河出書房新社

2028年のロシア。復活した帝国で特権を享受する親衛隊士たち。貴族屋敷への押し込み、謎の魚の集団トリップ、不思議な能力をもつ天眼女、蒸し風呂の儀式…。ロシアの現在を予言したと称される傑作長編。

毎日新聞 2022/11/19

2022:9./ 274p
978-4-309-46761-0

¥1,408〔税込〕



J ミステリー<2022FALL>(光文社文庫 こ 1-26)

光文社文庫編集部 編

光文社

東野圭吾、新川帆立、大山誠一郎、似鳥鶏、斜線堂有紀、太田愛。日本ミステリーを背負って立つ超豪華執筆陣による、全編新作書き下ろしアンソロジー。

毎日新聞 2022/11/19

2022:10./ 304p
978-4-334-79439-2

¥1,320〔税込〕



日米金融危機の政治経済学～平成金融危機&リーマン・ショック7つの教訓～

滝波 宏文 著

中央経済社

「正解」たる政策は、必ずしも人気政策ではない。「平成金融危機」と「リーマン・ショック」を政治経済学的に比較分析。コロナ危機対応にも生きた学術的視座を提示する。

毎日新聞 2022/11/19

2022:9./ 14p,5p,221p
978-4-502-43421-1

¥3,080〔税込〕



不死鳥と鏡(論創海外ミステリ 288)

アヴラム・デイヴィッドスン 著

論創社

古代ナポリの地下水路を彷徨う魔術師・ヴァージル。奇妙な冒険の行く先に待ち受けるのは永遠なる生命の秘密か、運命の女性か、それともフェニックスの狡猾な罠か？アヴラム・デイヴィッドスンの長編を初邦訳。

毎日新聞 2022/11/19

2022:9./ 305p
978-4-8460-2151-1

¥3,520〔税込〕



カリブ海の黒い神々～キューバ文化論序説～

越川芳明 著

作品社

詩、絵画、映画、宗教、逃亡奴隷、移民、製糖…。アフロ宗教の司祭の資格を持つ著者によるキューバ論。ディアスポラの文化や歴史を縦横に論じ、「老人と海」のまったく新たな読み解きへと誘う。

毎日新聞 2022/11/19

2022:8./ 344p
978-4-86182-926-0

¥2,970〔税込〕





もうひとつの声で〜心理学の理論とケアの倫理〜

キャロル・ギリガン 著

風行社

女性の道徳発達を低く見積もってきた、主流派心理学の男性中心主義を剔抉。「目の前の苦しみを和らげよ、誰ひとり取り残されてはならない」と命じる<ケアの倫理>の声を聴き取る。<ケアの倫理>の原点とされる名著の増補版。

毎日新聞 2022/11/19

2022:10./ 429p,11p

978-4-938662-38-7

¥3,300〔税込〕



JJM 女子柔道部物語<01>(イブニング KC 653)

恵本 裕子／小林 まこと 著

講談社

『柔道部物語』から25年、小林まことが再び“本格柔道漫画”を描く！原作はアトランタオリンピック女子柔道61kg級で、日本女子柔道界に初めての金メダルをもたらした恵本裕子!!雪の旭川を舞台に、白帯の女子高生が世界の頂点を目指す！

毎日新聞 2022/11/26

2016:12./ 184p

978-4-06-354653-8

¥649〔税込〕



ハコフグのねがい(講談社の動く図鑑 MOVE の科学えほん)

さかなクン 著

講談社

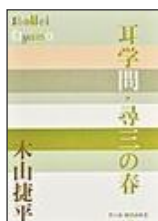
海の中にすんでいるハコフグ。いつもひとりでぶかぶか泳いでいます。群れで泳ぐイワシや、遠い北の海に行けるサケのことをうらやましく思っていました。さかなクンかきおろしの、自然科学や生き物への興味が深まる絵本。

毎日新聞 2022/11/26

2022:8./ 32p

978-4-06-528748-4

¥1,760〔税込〕



耳学問・尋三の春(P+D BOOKS)

木山捷平 著

小学館

満洲で現地招集されたが数日で終戦し、帰国する術もなく現地で過ごしていた“私”はシベリアに送られそうになり…。危機的状況をユーモラスに描いた「耳学問」、太宰治らとの交友を綴った「玉川上水」など全13篇を収録。

毎日新聞 2022/11/26

2022:9./ 262p

978-4-09-352448-3

¥770〔税込〕



近代日本外交史～幕末の開国から太平洋戦争まで～(中公新書 2719)

佐々木雄一 著

中央公論新社

ペリー来航、日清・日露戦争、第一次世界大戦、満州事変、太平洋戦争…。帝国日本はいかに拡大し、なぜ破局への道を突き進んだのか。国際秩序との関係を軸に、幕末の開国から太平洋戦争までの日本外交の歩みをたどる。

毎日新聞 2022/11/26

2022:10./ 4p,238p

978-4-12-102719-1

¥924〔税込〕





13 日間〜キューバ危機回顧録〜 改版(中公文庫 ケ 6-1)

ロバート・ケネディ、毎日新聞社外信部 著

中央公論新社

冷戦時、ソ連の支援を受けたキューバでミサイル基地建設が開始。軍部は攻撃を主張するが、ケネディ大統領はソ連のフルシチョフ首相との対話の道を探る…。2つの超大国の指導者の決断を、大統領の弟ロバートの眼で描いた記録。

毎日新聞 2022/11/26

2014:4./ 200p
978-4-12-205942-9

¥990〔税込〕



アルジャーノンに花束を 新版(ハヤカワ文庫 NV 1333)

ダニエル・キイス 著

早川書房

幼児なみの知能しかない 32 歳のチャーリーに、知能向上の手術の話が舞いこみ、白ネズミのアルジャーノンを競争相手に検査を受ける。やがて手術により天才に変貌したチャーリーだが…。著者追悼の訳者あとがきを付した新版。

毎日新聞 2022/11/26

2015:3./ 462p
978-4-15-041333-0

¥1,078〔税込〕



昆虫学者、奇跡の図鑑を作る〜カラー版〜(幻冬舎新書 ま-10-2)

丸山宗利 著

幻冬舎

子どもたちのために死んだ虫ではなく、生きたままの虫を撮って載せたい。有名昆虫図鑑の監修を任された著者は、全国の昆虫愛好家とともに 7000 種の生体を撮影し…。無謀な挑戦に命を燃やした虫好きたちの全記録。

毎日新聞 2022/11/26

2022:9./ 226p
978-4-344-98669-5

¥1,320〔税込〕



日本の「第九」〜合唱が社会を変える〜

矢羽々 崇 著

白水社

日本で年末に演奏されることで知られるベートーヴェンの「第九」は、戦前から「忠臣蔵」などに比せられ、市民に親しまれている曲だった。昭和期前半に、日本で「第九」がいかに受け入れられ、定着していったのかを論じる。

毎日新聞 2022/11/26

2022:10./ 299p,3p
978-4-560-09466-2

¥3,080〔税込〕



東京の創発的アーバニズム〜横丁・雑居ビル・高架下建築・暗渠ストリート・低層密集地域〜

ホルヘ・アルマザン + Studiolab 著

学芸出版社

東京の特徴的な都市パターンである横丁、雑居ビル、高架下建築などを洗練されたビジュアルとともに考察。東京独自の歴史と現在の強みの両方の観点から、東京の未来について企業主導アーバニズムとは別の方向性を提示する。

毎日新聞 2022/11/26

2022:10./ 223p
978-4-7615-2830-0

¥2,640〔税込〕





ドイツの家と町並み図鑑

久保田 由希／チカ・キーツマン 著
エクスナレッジ

中世の木組みの家、茅葺き屋根の古民家、世界遺産のモダニズム建築の団地…。ドイツ在住の2人が、まだまだ日本人には知られていない、個性豊かなドイツ各地の「普通の家」を独自の視点で紹介する。

毎日新聞 2022/11/26

2022:11./ 181p
978-4-7678-3063-6

¥1,980〔税込〕



日本の都市化～刈谷の工業と政治 1872-1972 年～

Gary Allinson 著
丸善プラネット

1975年に刊行された、アメリカの歴史学者による刈谷市研究書を翻訳。旧城下町から工業都市へと躍進した刈谷市の1872～1972年を対象に、経済発展がどのように社会構造および政治行動に変化を及ぼしたかを描き出す。

毎日新聞 2022/11/26

2022:10./ 14p,282p
978-4-86345-509-2

¥2,200〔税込〕



プーチン VS. バイデン～ウクライナ戦争の危機手遅れになる前に～

東郷 和彦 著
K & K プレス

半世紀以上ロシアと関わってきた著者が、ロシアとはどのような国であり、どうすれば一刻も早いウクライナ戦争停戦を実現できるかを提示する。中島岳志との対談、クリミア併合直後に受けたインタビューも収録。

毎日新聞 2022/11/26

2022:10./ 207p
978-4-906674-80-0

¥1,760〔税込〕

